

# JSSD

(報告事項)	2018 年度活動方針 .....	1
<b>第 1 号議案</b>	<b>2017 年度事業報告 .....</b>	<b>2</b>
<b>第 2 号議案</b>	<b>2017 年度収支決算報告.....</b>	<b>16</b>
<b>第 3 号議案</b>	<b>2018-2019 年度 役員選任 .....</b>	<b>19</b>
(報告事項)	2018-2019 年度 委員会等一覧 (案) .....	20
(報告事項)	2018 年度日本デザイン学会組織 (案) .....	22
(報告事項)	2018 年度 事業計画 (案) .....	23
(報告事項)	2018 年度 予算.....	28

## 2018 年度活動方針（松岡由幸）

### 2016-2017 年度の振り返り

この2年間は、「学会創設100年に向けて、今なすべきこと」という視点から、法人化対策特別委員会の先導のもと、法人化の遂行を活動の軸にすえて活動した。合わせて、法人化後を見据えて魅力向上委員会を設置し、以下を実施した。

#### i) 体制基盤の構築

- ・法人化の完遂。
- ・法人化後の会則・諸規定に準拠すべく、運用上のやり方を一部見直し（総会の進行、理事会の成立に向けたSKYPE導入など）。
- ・事務局体制を2名体制化。

#### ii) 学術基盤の構築

- ・特集号を刷新。
- ・論文集・作品集の完全web化に移行。
- ・国際論文集“Journal of Science of Design”発行。
- ・上記に合わせて、和文・英文論文集ともに、執筆要領と投稿規定の改定を実施。
- ・「デザイン科学事典」の編纂。

#### iii) 活性化策の推進

- ・芸術工学会、意匠学会、道具学会、基礎デザイン学会との合同による「デザイン関連学会シンポジウム」を提案・実施。
- ・機械工業デザイン賞（日刊工業新聞社主催）に「日本デザイン学会賞」を設置。
- ・若手会員を対象にした会長賞を制定。
- ・会員の出版物を紹介するホームページを追加。

## 2018 年度活動のエスキース

以下の3つの活動を目指す。なお、2018年度より法人化対策委員会および魅力向上委員会を廃止し、これらの活動を通常の理事会・運営会議のなかで進めていく。

### (1) 対象領域の拡大

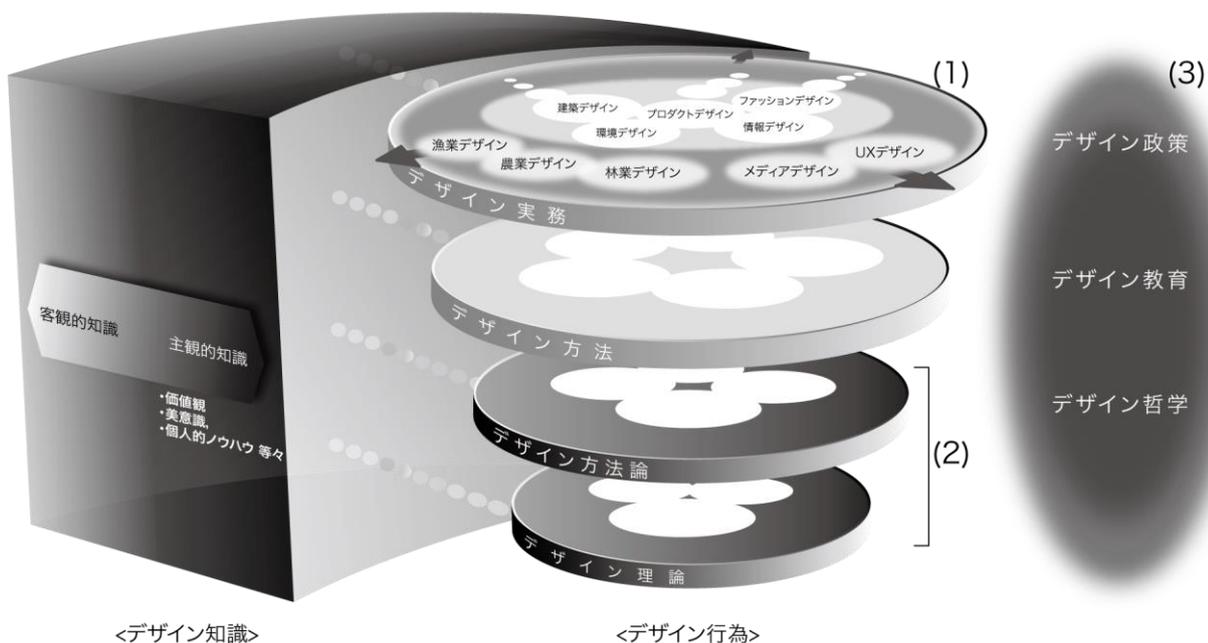
- ・メディア、インタラクション、UXなどの領域の取り込みと、それに伴う会員数の増加。
- ・農業デザイン、林業デザイン、漁業デザインやそれらの6次産業にむけたトータルデザインの推進とその産業化への貢献。

### (2) 研究・教育基盤の向上

- ・学会としての特徴を活かし、如何にデザインするか（How問題）のみならず、何をデザインすべきか（What問題）というデザイン哲学に関する議論の促進。
- ・英文誌の学術水準の確保と審査期間の短縮、および広報による国際的認知度の向上。
- ・「デザイン科学事典」などの事典類の編纂・発行。
- ・教科書的な市販教材出版の促進。
- ・上記教材を用いた講習会、セミナーなどの実施による学術基盤の向上とその事業としての財政確保。

### (3) 他団体との連携強化

- ・「デザイン関連学会シンポジウム」の推進。
- ・関係省庁・団体との連携によるデザイン政策の推進。
- ・産官学+民の連携強化（大会での市民講座、リカレント教育、オープンイノベーションなど）による社会的貢献と学会の知名度向上。
- ・高校、専門学校の参加促進とそれに伴う会員数増加。



## 2018 年度活動のエスキース

## 第1号議案

# 一般社団法人 日本デザイン学会 2017年度 事業報告

## 論文審査委員会

### 委員長 寺内 文雄

2017年度の投稿論文数は88件となり、検討を重ねてきた国際論文誌“Journal of Science of Design”を2号分および和文誌として位置づけられる『デザイン学研究』4号分を予定通り刊行することができた。具体的には、論文29件（英：10件，和：19件），論説5件（英：3件，和：2件），報告14件（英：4件，和：10件）となっている。ご投稿いただいた会員の皆様に御礼を申し上げます。

また今年度も多くの先生方に論文審査にご協力いただき、大変貴重なご意見やご指摘をいただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

※以下のご協力いただいた先生方記（敬称略，順不同）

Ahmad Aziz Hafiz, Chang Ikjoon, Chen Li-Hao, Chen Tien-li, Chiao Lin-Hao, Cruz Guerra Guerra Christian, Eom Jeong-Sik, Fan Chen-Hao, Hung Chi-Sen, Li Shu Lu, Lin Chang-Rong, Lin Fang Suey, Loh Wei Leong, Tsai Wang-Chin, Vesna Popovic, Wang Chao-Ming, Wang Hung-Hsiang, Yang Shiuan Ruei, Zhang Jue, Zheng Meng Cong, 赤澤 智津子, 浅沼 尚, 蘆澤 雄亮, 阿部 眞理, 石井 雅博, 石川 重遠, 石村 眞一, 伊豆 裕一, 出原 立子, 伊藤 孝紀, 伊藤 瑞香, 井上 勝雄, 伊原 久裕, 岩城 達也, 植田 憲, 遠藤 律子, 大鋸 智, 大島 直樹, 岡田 明, 尾方 義人, 小川 直茂, 小野 健太, 片山 めぐみ, 加藤 健郎, 菊地 久美子, 北神 慎司, 木谷 庸二, 木村 敦, 清須美 匡洋, 清水 泰博, 桐谷 佳恵, 工藤 芳彰, 久保 光徳, 久保田 善明, 黒須 正明, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 佐賀 一郎, 境野 広志, 坂田 勝亮, 佐々 牧雄, 佐々木 尚孝, 佐藤 公

信, 佐藤 浩一郎, 佐藤 弘喜, 下村 義弘, 鈴木 直人, 曾我部 春香, 曾和 英子, 曾和 具之, 田中 佐代子, 田中 隆充, 田中 法博, 谷本 尚子, 田村 良一, 寺内 文雄, 中島 永晶, 中西 美和, 中本 和宏, 梨原 宏, 姜 南圭, 野口 尚孝, 八馬 智, 原 寛道, 原田 利宣, 樋口 孝之, 平井 康之, 平田 一郎, 前川 正実, 増成 和敏, 松岡 由幸, 三橋 俊雄, 宮田 悟志, 村上 存, 村松 慶一, 永盛 祐介, 森野 晶人, 柳澤 秀吉, 山内 貴博, 山本 政幸, 吉岡 聖美, 羅 彩雲, 李 俐慧, 劉 夢非, 渡辺 慎二

## 作品審査委員会

### 委員長 須永 剛司

2017(平成29)年度作品集23号は、作品18件（内6件作品ムービー添付）を掲載することができた。力作の作品論文と作品ムービーを楽しんでほしい。今号は応募投稿原稿が37件で、採択率は49%となった。今回掲載にいたらなかった作品も含め多数の投稿に感謝する。この号は前22号から始まったJ-Stageの電子刊行のみとなっている。今号より著者の会員分類に「会員/正会員」のほか「学生会員/学生非会員」を明示している。

J-Stage上の「デザイン学研究・作品集」は「本文pdf, 抄録, 引用文献, 電子付録」の項目で構成されている。作品論文は「本文pdf」から、作品ムービーは「電子付録」から閲覧できる。なお、作品ムービーは、各作品論文の「書誌事項」ページのタブ「電子付録」から、以下のURLにアクセスして閲覧できる。

[https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/23/0/\\_contents/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/23/0/_contents/-char/ja/)  
<[https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/23/0/\\_contents/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/browse/adrjssd/23/0/_contents/-char/ja/)>

審査委員会では次のようにその審査と編集をすすめた。作品の応募・投稿の締切が8月31日。その後すぐに作品審査を開始。専門審査委員に参加いただき第1次審査期間を9月11日からほぼ1ヶ月。その審査結果をとりまとめ著者にお知らせして著者による修正期

間が10月25日からやはり約1ヶ月。その後第2次審査を11月22日より1ヶ月弱。12月15日の第3回審査会で載録作品を決定した。その後の著者による最終原稿訂正完了が1月7日。その後、目次立て、本部事務局より掲載費の請求、正文社による著者校正をへて無事J-Stageの電子刊行にいたった。今年度は23名の専門審査委員に協力をいただいた。そして2年間務めていただいた委員と幹事の方々に厚くお礼を申し上げたい。ありがとうございました。

2017(平成29)年度 作品審査委員会メンバー：須永剛司, 清水泰博, 田中佐代子, 永盛祐介, 上平崇仁, 丸山素直, 青沼優介

## 学会誌編集・出版委員会

### 委員長 井口 壽乃

昨年度、特集号は伊原久裕, 田中佐代子の両氏による新デザインで全面的にリニューアル, 再スタートした。25巻1号(97号)「イノベーションデザイン論：デザイン学の飛躍」(担当：永井由美子), 25巻2号(98号)「各国のデザイン保護法制の現状」(担当：麻生典)の2冊が刊行された。

執筆者の皆様のご協力により、デザイン学会らしいテーマの特集号となった。編集委員は、伊原久裕, 黄ロビン, 田中佐代子, 児玉幸子(幹事), 近藤存志(幹事)であった。

## 研究推進委員会

### 委員長 小林 昭世

研究推進委員会の活動は、1 研究部会の活性化 2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営 3 秋季企画大会における企画運営 などであるが、2017年度は以下の活動を行った。1 研究部会がこれまでと同じに活動するために、当学会法人化に伴い、研究部会を任意団体、つまり法人化された日本デザイン学会の外に置く組織とした。したがって、総会における研究部会の活動報告・活動計画は議案でなく報告事項になったが、総会やwebページに

における活動報告・活動計画届け出を前提とした補助金、テーマセッションの開催、などはこれまでと変わらない。2 拓殖大学で開催される春季研究発表大会において7つのテーマセッションを募集した。3 函館未来大学(岡本誠実行委員長)において、10月13(金)～15日(日)、テーマ「共創・当事者デザイン」を開催し、学生プロポジションを開催した。

2017年度理事・幹事：井上征矢，工藤芳彰，柿山浩一郎，永盛祐介。

## 企画委員会 総合企画

### 委員長 工藤 芳彰

平成29年度の企画委員会(総合企画)では例年同様、春季と秋季の大会実施に取り組んだ。まず、春季大会(第64回研究発表大会)については、2017年6月30日(金)～7月2日(日)の日程で、拓殖大学(文京キャンパス)にて「慮る(おもんばかり)デザイン」をテーマに開催した。秋季大会(企画大会)については、同年10月13日(金)～15日(日)の日程で、北海道函館市西部地区(函館市地域交流まちづくりセンター、はこだて未来大学デザインベース等)にて「共創・当事者デザイン」をテーマに開催した(含む学生プロポジション)。それぞれ関係者の皆さまのご協力のもと、成功裡に閉会することができた。あらためまして御礼申し上げます。

## 企画委員会 支部企画

### 委員長 山本 早里

法人化に伴う支部活動の位置づけのため、各支部の現状の調査を予定していたが、資料を収集するなどにとどまった。

## 教育・資格委員会

### 委員長 佐藤 浩一郎

2017年度の学会活動方針の1つである「研究・教育基盤の向上」のもと、学会各委員会と連携し、具体的な施策

の計画・実行のための準備を進めた。具体的には、編纂が進められている『デザイン科学事典』、研究部会等で検討が進められている教科書的な市販教材を用いた講習会やセミナー実施に関する議論を進めた。残念ながら2017年度における開催は実現しなかったが、引き続き、論文審査委員会、および各研究部会と検討を重ね、デザイン学領域における研究の質的向上を高めるプログラムを企画していく

## 広報委員会

### 委員長 内山 俊朗

ウェブサイトの安定的な運用のため迅速なシステムアップデートを行い、サイバーセキュリティ確保に努めた。

2017年度はウェブサイトに73件のニュース・イベント記事の投稿があり、そのうち33件が本部事務局、40件が支部・部会・委員会が投稿したものであった。2016年度は支部・部会・委員会の投稿件数の比率は全体の38%であったが、2017年度は投稿方法やマニュアルを周知することで全体の55%にアップすることができた。

新たな試みとしてウェブサイトにて委員の著書の掲載をスタートし、会員からの掲載申請が6件あり6件掲載した。

## 財務委員会

### 委員長 國澤 好衛

平成28年度の学会一般会計の収入は、およそ3,300万円であり、繰越金を除いた収入に対する会員の会費収入は約70%を占めている。また、支出においては、本部事務局経費および学会誌編集出版関連経費が、それぞれ約40%を占めている。

こうした状況下、財務委員会の使命は、新たな財源の確保や支出の圧縮を進め、財務体質の改善に努めることにあるが、収入増につながる新会員の加入促進は早々簡単なことではなく、また支出の大半を占める本部費や学会誌関連経費の圧縮は会員サービスの低下に直接的に繋がる可能性がある。

そこで、今年度は正会員予備軍である学生会員の確保に焦点を当て、学生の入会タイミングである春季大会の参加費や発表費などを減額することなどの検討を進めた。最終的な結論は出ていないが、学生会員増への取り組みは具体化したいと考えている。

一方、公認会計士事務所の監査による法人法を遵守した会計システムへの移行は順調に進んでいるが、今後とも会員の皆様におきましては、法人法に沿った適正な会計処理の徹底に向けてご支援とご協力をよろしく願いいたします。

## 市販図書企画・編集委員会

### 委員長 加藤健郎

昨年度は、デザイン学会編「デザイン科学事典」(丸善出版)の編集を、松岡由幸会長(同事典編集委員長)のもと、進めてきた。現在、約170項目(700頁)のうち、およそ9割の原稿を収集し査読・校閲作業を進めている。本書は、平成30年度内の刊行を目指して、今後、編纂を加速させていく所存であり、今後とも関係者の皆様方にご協力願いたい。

## 法人化対策特別委員会

### 委員長 國澤 好衛

平成28年度、日本デザイン学会は、「一般社団法人日本デザイン学会」として再スタートをきり、平成29年度の春季大会において第1回の定時総会を無事に終了することができた。

法人化特別対策委員会は、本学会が法人化を進めるためのタスクフォース委員会として設置されたわけであるが、法人化が達成されたことで収束し委員会は解散となる。会員の皆様には、これまでの法人化に向けた取り組みにご尽力いただいたことに感謝いたします。

新法人として用意すべき仕組みや規定など、未だ不十分な点はあるが、今後は総会、理事会のもとで法人としてのガバナンスの徹底に取り組んでいくことになる。会員の皆様のご支援よろしくお願い致します。

## 魅力向上委員会

### 委員長 松岡由幸

2016年度に実施・検討した「学術基盤の構築」、「活性化策の推進」、および「社会貢献の強化」を受け、2017年度の魅力向上委員会は、さらなる推進策を検討した。以下に、その主要な2点について報告する。

#### (1) 研究・教育基盤の向上

研究基盤の向上に関しては、国際論文誌の発行と「デザイン科学事典」の編纂について報告する。

まず、論文審査委員会のご努力により、長年の懸案であった国際論文誌“Journal of Science of Design”を、年2号の定期刊行論文集として出版することができた。今後は、その質の向上と知名度を図ることが望まれる。

デザイン理論・方法論研究部会を中心に進めている「デザイン科学事典」(丸善出版)については、一部の未執筆の影響を受け、その編纂の進捗が大幅に遅れている。今後、執筆者や掲載項目の見直しなどを通じて、加速させることが急務である。

なお、今後は教育基盤の向上にも注力する必要がある。具体的には、教科書的な市販教材出版を推進するとともに、それを教材とした講習会、セミナーなどの実施を推進する。それにより、教育基盤の向上を図るとともに、その活動を通じて、会員数の増加や事業収益の確保も同時に図っていく。

#### (2) 他団体との連携強化

2016年度秋季企画大会において、意匠学会、芸術工学会、道具学会、基礎デザイン学会の各会長が集合したことをきっかけとし、それらの学会間連携による「デザイン関連学会シンポジウム」の推進の仕方について検討し、デザイン界全体への貢献を図った。

その結果、意匠学会が幹事学会となり、2017年9月30日に京都工芸繊維大学にて、デザイン関連学会シンポジウムを開催するに至った。テーマは「パウハウスとデザイン思想」であり、本学会からは松岡が講演者として参加した。

2018年度には、芸術工学会が幹事学会として、5月20日に九州産業大学の井上貢一先生のご尽力により実施され

た。テーマは「人工知能×デザイン」であり、創造性や哲学などに関する様々な議論がなされた。

なお、2019年度には、道具学会が幹事学会として実施予定であるが、これについては、当学会への協力要請も出ており、今後、参加する学会員の増加を視野に入れ、検討を進めていく予定である。

また、その他の他団体との連携強化策として、毎年行われている日刊工業新聞社主催の機械工業デザイン賞への参画の可能性に向けた議論を行った。

その結果、2017年度より「日本デザイン学会賞」の設置に至り、サイダ・UMS社の「21世紀型普通旋盤 VERSEC」を第1回の日本デザイン学会賞として授賞することができた。このことは、当学会が法人格をもったことを有効に活かした結果でもあるといえる。

以上に、2017年度の魅力向上委員会の活動の一部を報告した。なお、本委員会における魅力向上に関する課題抽出は、2016年度よりの2年間の活動を通じて、ある程度進んだと考える。

勿論、さらなる継続的議論は不可欠ではあるが、むしろそれらの議論は、総会、理事会、運営会議の中で常態化の中で行われることが望ましいと考える。そのため、本委員会を2017年度で閉じることを提案する。

## 2017年度

### 春季研究発表大会実行委員会

#### 実行委員長 岡崎 章

第64春季研究発表大会のテーマは、「慮るデザイン」とした。デザインするうえで人の心を慮(おもんば)かすることは当然のことながら、それは「快のイメージを増幅」する目的が殆どであった。しかし、「負のイメージを軽減」する目的に対してもデザインはもっと目を向けなければならないと考えたからである。またそれは、快のイメージを増幅のための新しい視点になると思ったからである。今まで経験したことがなかったような災害を、誰が経験してもおかしくない現在、被災者の心を推し量りデザインで軽減することは、

医療や看護と同様に重要なはずである。一方、「快のイメージを増幅」することについてもオリンピックを控えた昨今、海外から来日する文化が異なる人達への「おもてなし」を考えたとき、「慮るデザイン」とは何かを考え直すことも重要になる。

しかし、いずれもどう慮れば良いのかを考えると、人の心は曖昧であるがゆえに立ち止まってしまうのも事実である。そこで、慮るデザインとは何なのかを正面切って考える場にしたいと考えたのである。加えてこれまで対象としなかった領域に対して慮るデザインを見いだす機会にしたいと思った。

本研究発表大会は、拓殖大学文京キャンパスにおいて6月30日(金)~7月2日(日)までの3日間開催し、参加者は、569名であった。



学会長による開会の挨拶

6月30日(金)は、基調講演「地域と企業、そして社会をつなぐデザイン」が若杉 浩一氏(パワープレイス株式会社 シニアディレクター)によって行われた(14:30~16:00)。氏は、デザインとは未来を豊かにする仕事だと思ふ企業のデザインを懸命にやってきたもののその先には経済しかなか、その経済のためにだけに仕事をしていいのだろうかという疑問を抱いたことを先ず語られた。



若杉氏による基調講演

そこから自分たちの故郷はどうなるのか? デザインの未来はどうなるか? という思いが「日本全国スギドラ

ケ倶楽部」としての活動となり、16年間、2000名もの人の共感を呼び、結果、デザインに繋がっている、という内容をユーモアたっぷりにお話し頂いた。会場は笑いの渦と共に共感を得る場となった。なお、本基調講演は一般公開された。



会場の拓殖大学文京キャンパス

基調講演の後、研究部会ミーティング(16:10~17:00)が行われた。研究部会ミーティングの時間を設けたのは今回が初めての試みであった。今回実施されたのは、子どものためのデザイン部会、情報デザイン部会であった。

部会ミーティングの後、日本橋に移動し、エクスカージョン「神田川~日本橋ぐるり周遊クルーズ」(18:00~19:30)を実施した。雨で中止が危惧されていたが、雲も晴れ間を見せ、快適なクルーズ[日本橋のりば~江戸橋~隅田川(永代橋・清洲橋・両国橋)~神田川(浅草橋・万世橋・聖橋)~日本橋川~一ツ橋~常盤橋~日本橋のりば]が堪能できた。参加者は、24名であった。



エクスカージョン[神田川~日本橋ぐるり周遊クルーズ]

7月1日(土)は、口頭発表(9:00~11:00, 12:50~14:50)、ポスターセッション(11:00~12:00)において様々な分野から発表が行われた。オーガナイズドセッション(15:00~17:00)は、「慮るデザイン」と「デザイン研究における記述方法としての視覚化」の2つが並行して開催された。

オーガナイズドセッションA「慮るデザイン」では、以下の4つの各分野の専門家のお話の中からどのように人の心を捉えようとしているのかを串刺しして見ることで、デザインに活かす知見とする議論がなされた。



オーガナイズドセッションA

①ロボティクス(ロボットという超人的な存在をイメージしがちだが、「生きている限り自立した生活ができる」ことを保証するためのロボットを考えるとどのようなことなのか).②義肢装具のリハビリテーション学(義肢補装具を切断者に合わせるために、切断者の痛みや不安感を払拭するために切断者の意見を聞きくが、それが必ずしも最適解にはならないとはどのようなことなのか).③家族看護学(家族が病気になるれば、病人へ心が一方的に向かうなど家族間で様々な問題が生じるが、それを修復し、より良い方向へと導く家族看護学の考え方とはどのようなものなのか).④感性デザイン学(感性評価のためのデザインは、既存の評価法と異なり曖昧な感性を曖昧なまま評価するところにある、とはどのようなことなのか).



オーガナイズドセッションB

オーガナイズドセッションB「デザイン研究における記述方法としての視覚化」では、従来の自然科学的研究スタイルを踏襲するだけでは既存の研究手法や成果の提示方法としてはまだ不十分という問題提起を出発点として、情報デザインという市民のあらゆる生

活を横断する実践分野を対象にデザイン研究の方法とデザイン研究者の役割を再定義がなされた。

UCD(User Centered Design)の重要性が謳われて久しいものの、ユーザーに対する研究ほどにデザイナーの営みに対する研究が進んでいるとは言い難く、さらに、ある瞬間高い評価を得たデザインも時間の経過とともに消滅する。そのデザインが社会に受け入れられたことで社会も変化し、社会の変化の方向に誰が責任を取るかをデザイナーに求めることは困難である。デザイン研究の対象は無限に挙げられるものの問題は、その研究方法と成果の評価にあるとし、どうしたらデザインできるようになるのか、どうなればデザインできたと言えるのか、そのデザインの価値を誰がどう評価すれば良いデザインなのか、これらの成果から何を学べば「デザインできる」という知や技を次世代に引き継いでいけるのかという問いに対して解を求められた。その議論の取り掛かりとしてデザインプロジェクトのプロセスや成果の記録・記述方法に焦点を当て、デザイン研究の記述方法について検討された。

懇親会(17:15~19:00)は、E館9Fの展望ラウンジで実施した。3方向から都心を一望できる空間に横浜ビールで親睦を深め、また、新たな人との出会いが新しい研究へと誘ってくれたことと思っている。



懇親会における開催校デザイン学科長の挨拶

7月2日(日)は、口頭発表(9:00~11:00, 12:50~14:10)、ポスターセッション(11:00~12:00)において、前日同様様々な分野から発表が行われた。オーガナイズドセッション(14:20~16:20)として「これからの仕組み-国産木材とデザイン」と「キッズデザイン-子どもの安全と傷害予防に向け

た製品の研究開発」の2つが並行して開催された。

オーガナイズドセッションC「これからの仕組み-国産木材とデザイン」では、デザインを中心に国産木材に関わりつくる方々の発表・討論を通して、私達が今日からできることや明日からすべきことなどを考えるとともに、これからの生活や社会などの仕組みの手掛かりを目指すための議論が行われた。国産木材は、生活財はもちろん風土に根差した文化や景観をかたちづくるなど私達の日常をつくってきたものの、利用の減少や森林の荒廃などと言われて久しいこと。戦後の不足期から輸入自由化などを経て工業化などとともに姿を消していき、1980年をピークとした価格は低下し、森林・林業に携わる関係者の減少などが続いていること。さらに現在は、戦後に植林した杉や檜などが需要期に入るなか大きな転換期に入っており、デザインなど諸分野からの貢献が求められていること。それは、例えば生産地の声などを聞くと地域資源としての商品開発などから産直住宅、街づくりなど様々でデザインの幅広い専門性とそれらの総合性にあること。人やモノ、場、時、コトなどを関係付ける環境デザインの方法論や計画論に通じることが示され、国産木材からデザインを考えることは、これからの私達の生活や社会を考えることにつながるのではないかという視点で議論された。



#### オーガナイズドセッションC

オーガナイズドセッションD「キッズデザイン-子どもの安全と傷害予防に向けた製品の研究開発」では、消防庁+医師(傷害事故データの提示)⇒産総研(分析・研究)⇒デザイナー(製品や環境、社会に対して解決策を再現)⇒よりよい社会の実現を目指すための議論がなされた。子どもを取り巻く

環境は日々変化しており、新しい空間や製品が生まれる度に新しい危険が生まれる可能性があること。しかし、人間が造った環境や製品によって引き起こされた事故ならば人間によって解決できるはずであり、デザイナーや開発者はどんな製品や環境においても必ず子供の安全に対する配慮をしなければならぬことが示された。(公社)日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)のセンター委員会の一つであるスタンダード委員会・キッズデザイン部会では、産総研、小児科医の山中医師、東京消防庁と協働し、子どもの傷害事故を未然に防ぐための製品や環境づくりの研究の取り組みをされており、それについて紹介された。自転車による事故が多いのは容易に想像がつくが、浴槽やミニトマトで毎年何人もの子どもが命を落としていることはあまり知られていない。ミニトマトやぶどうは、丸ごと食べさせると喉に詰まり死亡に至ることがあり、このような悲劇を繰り返さないためには、まずこのような実態を広く周知させること、そして事故を予防するための道具の開発が重要であるという考えから、ミニトマトやぶどうを手軽に小さくカットする道具の開発に2年以上かけて取り組んで来た研究の過程と成果を例に議論がなされた。



#### オーガナイズドセッションD

企業展示は、株式会社Too、株式会社LDF、株式会社エーアンドエーブックス、有限会社つばさ洋書、株式会社ホロクリエイト、ダイナコムウェア株式会社、公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会の7件であった。

末筆であるが、参加頂いた皆様、開催にあたってご協力頂いた皆様に感謝の意を表すると共に会員の皆様の益々のご発展を祈念し、開催報告とする。

## 2017年度

### 秋季企画大会実行委員会

#### 実行委員長 岡本 誠

2017年度日本デザイン学会秋季企画大会は、公立ほこだて未来大学を幹事校として、2017年10月13日(金)から10月15日(日)の日程で、函館市地域まちづくりセンター等函館市内各所で開催し、約200名の参加があった。これまで秋季企画大会は、主に首都圏で開催されてきたが、今大会からは新しい取り組みとして地方で開催することになった。地方で開催することの意義を、デザイン研究の裾野を広げることと理解し、地方でデザインに関連する勉強や仕事をしている人が参加しやすい学会の環境作りを目指した。また、地方の大学は、大会を支える人員や予算に限りがあるので、手間や経費のかからない大会運営に心がけた。また、デザイン学会第一支部大会の開催日程とかぶるため秋季大会と共催することとした。

大会のテーマは、「共創・当事者デザイン」- 当事者と共にデザインすることの意味 - とした。近年、参加型デザインや共創に関心が高まっているが、共創の認識は定まったものではなく、多様な人の実践の紹介や議論から共創の意義を深めていく必要がある。今大会では、共創に関心のある研究者や活動家が発表をおこない、あるいはワークショップで身体と脳を動かし、「共創・当事者デザイン」について議論を深めた。

主なプログラムは、以下であった。

- ①各賞表彰及び授賞式：各賞表彰及び授賞式を行った。
- ②企画テーマ討論会：企画テーマ「共創・当事者デザイン」のシンポジウム。北欧、日本や函館の事例を当事者や研究者の視点で紹介し、活発な議論が行われた。登壇者は、安岡美佳(IT University of Copenhagen)、高田傑(建築家、函館市)、鈴木辰徳(八百屋すず辰、函館市)、上平崇仁(専修大学)、司会 岡本誠(公立ほこだて未来大学)。
- ③第1支部大会討論会：「ガクガク連携」札幌市立大学の異分野の学問交流、

市民との連携などについて他の専門分野との連携を効果的に進める上での工夫について議論した（詳細は、第一支部大会報告の項を参照）。

④企画テーマセッション：企画テーマに沿った研究発表をライトニングトーク（発表5分）形式で実施した。20数件の発表がマシンガンのように行われ、多いに盛り上がった。司会 原田泰（公立はこだて未来大学）。

⑤企画テーマワークショップ：企画テーマに沿った街ぶらワークショップ。30名を超える参加者があった。身体と頭で「共創・当事者デザイン」を考える企画。ファシリテータ 原田泰（公立はこだて未来大学）。

⑥学生プロポジション：デザイン学研究の普及を目的に、「学生プロポジション」展覧会（ポスターや成果物の展示によるインタラクティブ発表）を実施した。全国15校から参加した68名が前半に別れてポスター発表をおこない、活発な質疑応答が続き、大盛況であった。厳正なる審査の結果、今年度は68件の発表のうち、20件に優秀賞を授与することとなった。担当：工藤芳彰、永盛祐介、安井重哉、美馬義亮、小林昭世。

⑦研究部会研究会：研究部会の研究会を開催した。



企画テーマ討論会：「共創・当事者デザイン」



企画テーマに沿った5分の研究発表（ライトニングトーク）、市民の発表の様子



企画テーマに沿った街ぶらワークショップの成果物（経験の屏風）



学生プロポジション：情報系等関連分野の学生も多数参加

■ 大会実行委員長 岡本誠，副実行委員長 柳英克，木村健一，実行委員 美馬義亮，原田泰，安井重哉，伊藤精英，南部美砂子，姜南圭，学生実行委員 三野宮定里，川島奨大，斎田萌，木下誠子（以上全て、公立はこだて未来大学）

2017 秋季大会 website:  
<http://www.fundesign.jp/jssd2017f/>

## 学会各賞選考委員会担当

担当理事 久保 光徳

昨年度は、西川清氏、工藤卓氏、河原林桂一郎氏が、長年にわたる学会活動、及び学会運営における多大な貢献に対して功労賞を、青木幹太氏、佐藤佳代氏、井上友子氏、星野浩司氏、佐藤慈氏、荒巻大樹氏が、「プロジェクト型デザイン教育と地域産業プロモーション活動に関する一連の共同研究と実践」における功績に対して特別賞（共同受賞）を、そして、川上比奈子氏が年間論文賞「アイリーン・グレイが学んだ菅原精造の日本漆芸の背景（Vol. 63, No. 6, pp. 57-64, 2017）」を受賞された。

昨年度の学会各賞選考委員会の構成は、以下の通りである。ご尽力いただいた方々に感謝したい。

委員長 青木弘行

委員 庄子晃子，杉山和雄，原田昭，松岡由幸，宮内愨，宮崎清，森典彦，山中敏正

## Design シンポジウム担当

担当理事 小林 昭世

日本デザイン学会をはじめ、デザイン・設計への関心を共にする日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している。

2017年度は、日本デザイン学会が2019年度に開催する会議を幹事学会として準備できるかどうか検討し、引き受けることになった。本学会からの委員は、松岡由幸、永井由佳里、小野健太、小林昭世。

## IASDR担当

担当理事 山中 敏正

IASDR2017 が2017年10月31日～11月3日、シンシナティ大学で行われた。  
<http://www.iasdr2017.com>

Tuesday, October 31 - Friday, November 3, 2017

University of Cincinnati, College of Design, Architecture, Art, and Planning, Cincinnati, Ohio

IASDR2017 シンシナティ大会に向けての準備を進める年であった。

4月13日にオンラインで理事会を開催し、会長の方針、2017年大会の準備状況や財務状況などを確認した。2017年大会の運営について、理事会で協力することを確認した。

役員、理事の任期および人数に関する規約の改定を承認した。

IASDR2017の投稿数が263であり、USが66件、次点は日本の38件であった。

2019年の開催地について議論し、募集を行うこととした。過去のIASDR発表論文などのアーカイブについて、原則として開催大学のリポジトリを活用

し、リポジトリが不可能な場合は個別に対応することとした。特に、2011年のデルフト大会のアーカイブは依然として課題である。

IASDR2019 の募集の結果、Manchester Metropolitan University で開催することに決定した。

会長の改選期に伴い選挙を実施し、Lin-Lin Chen 氏が会長に就任することとなった。

11月には IASDR2017 を開催した。科学的な立場で書かれた研究の評価が低かったことなど、課題も残された。大会期間中に理事会を開催し、Lin-Lin Chen 氏が正式に会長となり、David Durling 氏が副会長、山中敏正氏を事務局長、Fong-Gong Wu 氏を財務担当とする人事が提案され、承認された。新体制は IASDR2017 中にアナウンスされた。

## 日本学術会議

### 第一部/人文・社会科学

#### 担当理事 小林 昭世

本デザイン学科を含む16学会よりなる芸術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2017年度は、團名保紀(東北芸術文化学会)・遠藤徹(東洋音楽学会)をオーガナイザとして、6月10日(土)、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)にて、「21世紀、いま新たに装飾について考える」をテーマとしてシンポジウムを開催した。このテーマのもとに、デザインをはじめ、美術、音楽、演劇、映画、舞踏などの領域を横断的に討論が行われた。

## 横断型基幹科学技術

### 研究団体連合

#### 担当理事 村上 存

横幹連合では4月27日に開催された2018年度定時総会において2018(平成30)年度の方針が確認された。その中で、第9回横幹連合コンファレンスについて「社会の発展と文化の深化をもたらす知の統合へ向けて」というテー

マで実施することが確認された。また、コトづくりの記述化・見える化を目的とした「コトづくり至宝発掘事業」の試行版が実施されることが決定した。これらの方針は日本デザイン学会の活動目的と合致するものであり、学会として積極的に関与していく予定である。

## 日本工学会

### 担当理事 村上 存

日本工学会は、約100学協会により構成される工学系学術団体である。2017(平成29)年度は、会員学協会との話題提供や学協会運営などに関する最近の情報交換が行われる事務研究委員会への出席を通し有効な情報収集を行った。

## 第1支部

### 支部長 岡本 誠

第8回第1支部大会は、秋季企画大会との共催で平成29年10月13日(金)に函館市地域まちづくりセンターにて、1時間の討論会形式で開催した。秋季企画大会に組み込むことで、他イベントと連動して、デザイン学が他分野と効果的に連携する工夫についての議論の活性化を目指した。前半はデザインと看護の2学部制として異分野の学問の連携を模索してきた札幌市立大学の「ガクガク(=学部,学問)連携の成功と失敗」を、当事者の立場から事例紹介した。紹介内容は、連携教育・研究の概要(細谷),連携研究例(スーダイ・柿山,村松・三谷)である(司会:福田)。後半は、ネットのアンケートサービスで来場者(投稿者数:31)の感想・意見を収集し、「これからのデザインガクガク連携」を来場者と一緒に共有・議論した。以下、投稿と回答の一部を紹介する(一部要約して掲載)。

問:「ガクガク連携の成功と失敗」の事例に関する、質問、意見、感想をお寄せください。

<投稿 1>他学科の人の知識や意見は、納得ができない場合や、他人に分かってもらえないことがあります。<回答

1>領域をまたぐと知識・考えが共通することは稀ですが、それがまた連携の魅力です。

<投稿 2>デザイン学部生の進路の多様性で、想定内、想定外のことはありますか?<回答 2>学生の就職先企業から、コミュニケーション能力・プロジェクト推進力への評価が増えました。デザイン専門職に限らず、総合職や一般職の就職先でも同様の評価が得られるようになり、卒業生の就業分野が拓かれ始めていると感じています。看護学部でもデザインの着眼を備えた卒業生が増え、相乗効果が生まれることを期待しています。

<投稿 3>看護学部の時間割・実習期間との調整はどのように解決しているのでしょうか?<回答 3>一番「ガクガク」している点です。特に看護実習との調整が難題です。本学では、大学全体で継続的に協議しつつも、授業計画をデザイン学部が看護学部に合わせて進めています。

<投稿 4>グループ内での役割分担などは学生たちが行っているのでしょうか?<回答 4>学生18名(看護9名+デザイン9名)と教員2名(各1名)が1ユニットで動いています。ここ数年は地域課題への取り組みをテーマとしていますから、全体討議で複数の課題設定を行ったあと、役割分担を学生が話し合いの中で決めて、ユニットの中で2グループに別れて取り組み、成果発表をユニット全体ですするという流れになっています。

<投稿 5>臨床(看護)と計画(デザイン)の接点がとりにくく、研究でも全く違うタイプの論文が出ると予想される。D×Nは教育領域としては興味深く独自性が高いが、論文としては出しにくいのではないのでしょうか?<回答 5>異分野連携を成功させる上で重要なことは連携者それぞれの専門分野がフェアに生かされる体制づくりと姿勢を代表者の責任の一つとして取り組む必要があります。

<投稿 6>連携を目的として作られたというのが非常に面白い成り立ちと思いました。その背景にある目的意識はどのようなものだったのでしょうか?<回答 6>社会で求められるアウトカ

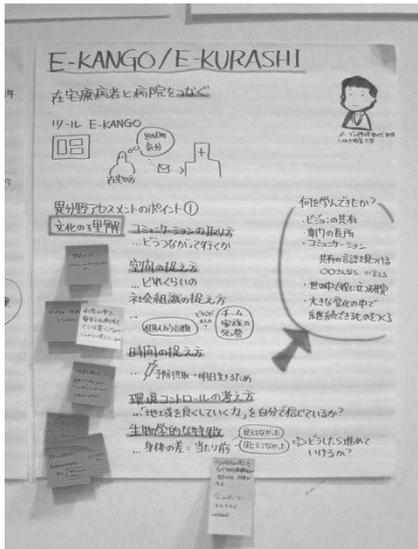
ムを生むには異分野連携は必須ですし、異分野連携は社会の縮図でもあり、一分野のみではニーズを満たせないと考えています。

＜投稿 7＞デザイン学部生が他の専門領域と組むとデザインが下請になりがちです。デザイン学と看護学は絶妙な組み合わせと感じました。＜回答 7＞その危険性は常に秘めている案件が少なくありません。研究者同志の事前合意とフェア性を失いそうな時には「立ち止まって話し合う」「おかしい！」という勇気は必要だと思っています。

大会実行委員長:細谷多聞(札幌市立大学デザイン学部), 実行委員:安齋利典・若林尚樹・三谷篤史・柿山浩一郎・福田大年(以上、札幌市立大学デザイン学部), ゲストスピーカー:スーディ神崎和代(いわき明星大学[札幌市立大学看護学部名誉教授])・村松真澄(札幌市立大学看護学部)



討論会の様子



討論会の Real Time Documentation

## 第2支部

### 支部長 山本 早里

第2支部では、デザイン学の上で“旬”の場所を見学させていただく会を企画してきた。平成29年度は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控えて注目されている「成田国際空港」の見学会を企画し、様々なお客様が利用される施設のため、国際性やユニバーサルデザインをテーマとした。見学会名称:成田国際空港第一ターミナル南ウィングを中心とした施設見学会「空港におけるユニバーサルデザインー2020東京オリンピック・パラリンピックに向けてー」

日時:平成29年11月24日(金)

参加者数:19名

協力:成田国際空港株式会社(NAA), 全日空運輸株式会社(ANA), ANA成田エアポートサービス株式会社(NRTAS) 概要:当日は集合後に会議室での諸説明を受けた後、施設見学を行い、その後ワークショップを行った。

施設見学では、参加者は利用者と同じ目線でそれぞれ仮定した経路で施設内を回り、よい点や改善点などを確認していった。具体的には参加者は三班に分かれ、まず電車、自家用車、バスで空港に着いたと仮定し、それぞれの出発点から搭乗手続きや出国審査、搭乗口まで進み、次に外国から成田に到着したと仮定して、入国審査、手荷物受取、最寄りの交通機関までの施設を見て回った。

ワークショップでは、班ごとに経路を振り返りながら気づいた点を出し合い、その後全体での意見交換を行ったうえで、最終的に専門家の意見としてまとめ、NAA様他に提出した。例えば「サイン・言語・色」の統一が必要である、空間演出は本格的にやった方がよい、音の設計も必要である、などの意見が出された。

UDやサインなどの専門家の方々に多くご参加いただき、意見や質問も活発に出され、大変有意義な機会となった。参加いただいた皆様に御礼申し上げますとともに、何かしら参考になれば幸いです。

なお、セキュリティ上、また多数の利用者で混雑する施設のため、NAA様、

ANA様、NRATS様とは何度か事前に打合せを行い、現地での見学経路のリハーサルにもお付き合いただいた。見学時やワークショップにおいても同行・同席いただき、説明・質疑に対応いただいた。なかなか一般にはできない見学会を企画することができ、ご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。



見学風景



ワークショップ風景

## 第3支部

### 支部長 滝本 成人

第3支部では会員交流と活動の活性化に加え、平成29年度は学生会員の拡大も目標として、下記の事業を実施した。

1. 第3支部研究発表会・懇親会 目的:第3支部会員の活動・研究を相互に知り合い、懇親会にて交流を深める。

発表内容:デザインに関係したあらゆるテーマが発表対象。発表者自身が行ってきたデザイン学研究、今後のデザイン学研究の方向性・発展性などについて、発表形式にとらわれず、自由な発想と、方法とによって発表する。

開催日時:平成30年2月25日(日)10時50分~17時30分

内容:口頭発表,ポスター発表,表彰,懇親会

会場:愛知産業大学

参加者:57名(会員19名,学生:31名,一般7名)

発表：35 件（口頭 11 件，ポスター 24 件）

概要：13 回目となる本研究発表会は、愛知産業大学が会場となった。今年度は過去最高の発表件数となり、口頭発表の会場を 2 会場で実施した。研究発表会の各概要は、ISSN を取得した第 3 支部研究発表会概要集に収録され (ISSN2188-479X)、国立国会図書館に収録されている。学生表彰につきましては、第 3 支部研究発表会においての優秀な研究発表、ポスター発表を対象とした「優秀発表賞」を設け、平成 25 年度よりスタートさせている。今年度の受賞者は以下の 8 名である。

■スタッズ ポンパン (福井工業大学)  
Comparison of Lampang Ceramic and Echizen Ceramic

■楠 大和 (福井工業大学大学院社会システム学専攻)

握る杖

■江里口 裕紀 (名古屋市立大学芸術工学部)

次世代ハイブリッド手術室におけるサージェリーテーブルのデザイン

■谷上 昂 (名古屋市立大学芸術工学部)  
患者に対する病室内の音環境に関するデザイン

■鈴木 美帆 (名古屋市立大学芸術工学部)

ハイブリッド手術室対応型の電気メスのデザイン

■赤松 一輝 (福井工業大学)  
MEUCH ～触覚を取り入れたリハビリテーションゲームの提案～

■田中 隆司郎 (福井工業大学大学院社会システム学専攻)

継手仕口から展開する新しいジョイントの研究

■張 羽桐 (愛知県立芸術大学)  
濠のリデザイン ～グリーンインフラストラクチャーと歴史まちづくり～

2. 日本デザイン学会奨励賞第 3 支部  
学生表彰制度については、各所属機関 (大学、大学院、短期大学) において優秀な研究、制作活動を行った学生・大学院生を対象とした「奨励賞」を、平成 25 年度よりスタートさせている。

目的：表彰制度による学生の研究、制作活動に対する評価



対象：日本デザイン学会第 3 支部会員 (教員) 在籍の大学院、大学、短期大学において、特に優秀な研究、制作を行った学生、大学院生

人数：学部卒 2 名、大学院前期課程 (修士) 卒 2 名、後期課程 (博士) 卒 2 名 / 各所属機関

選考方法：各所属機関に所属するデザイン学会会員による選考

表彰：第 3 支部から賞状データをメール送付し、各機関にて印刷し行う。奨励賞受賞者は以下の 19 名 (推薦書提出順)。

■藤田 和秀 (福井工業大学大学院工学研究科)

沿岸地域における避難誘導に関する研究

■田中 隆司郎 (福井工業大学大学院工学研究科)

継手仕口の技を取り入れた新しいジョイントのデザイン

■外山 香帆 (金城学院大学生生活環境学部環境デザイン学科)

共生のかたち ～篠島グランピング計画～

■店橋 良仁 (愛知産業大学造形学部デザイン学科)

紙による立体制作の研究

■小田 亜未 (愛知産業大学造形学部デザイン学科)

イラストレーションによる社会問題の視覚化

■中田 泰子 (北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科博士後期)

イノベーション創出のための連動型コミュニティデザイン研究

■由田 徹 (北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科博士後期)

感性情報に基づく景観デザインの主観評価法の提案

■清野 聖人 (北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科修士)

気づきを誘発するグループワーク活動支援システムのデザイン

■Chiang Hua Ko (北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科修士)

Impact of ECS Design Features on the Performance of SMEs

■阿部 有里 (椋山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科)

片手でコンタクトレンズ

■梅原 愛美 (椋山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科)

片手でミニドレッサー

■佐橋 菜月 (名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科)

名古屋伝統工芸染色を用いた服飾表現

■錦見 淳子 (名古屋学芸大学大学院メディア造形研究科)

服装造形におけるラッフルに関する研究

■弟子丸 哲也 (名古屋学芸大学メディア造形学部デザイン学科)

LINEAR-触覚 UI の IoT ヘッドフォンの研究と提案

■小澤 ことは (名古屋学芸大学メディア造形学部デザイン学科)

22 歳のなかみ (卒業制作)

■奥村 健一朗 (名古屋工業大学工学部建築・デザイン学科)

くらしを分つムラ

■吉田 夏稀 (名古屋工業大学工学部建築・デザイン学科)

カバタのすゝめ

■鈴木 美帆 (名古屋市立大学産業イノベーションデザイン学科)

ハイブリッド手術室対応型の電気メスのデザイン要件の研究

■谷上 昂 (名古屋市立大学産業イノベーションデザイン学科)

患者に対する病室内の音環境に関するデザイン要件の研究

## 第 4 支部

### 支部長 益岡 了

1) 昨年度から引き続き支部の活性化を目指して、ポートフォリオ学生交流会の企画を実施した。岡山県立大学を幹事校として開始し、その後京都精華大学や大阪工業大学などを巡回し、学生にとっては新たな刺激が与えられる、教員にとって他大学のデザイン教育の

あり方を調査・活用する機会になったと思われる。

2) 第65回春季研究発表大会「“デザイン”の時代」(6月22日(金)～24日(日))が第四支部内の大阪工業大学で実施されることから、支部活動としてその支援を行うとともに、一部企画についての検討を行った。これからは大学組織の枠を超えた連携活動として、積極的な支部活動が求められるが、同様の活動として他の学会：道具学会や意匠学会との協力が一段と実施出来た。

3) 日本デザイン学会第4支部研究発表会を、平成30年1月20日(土)、京都女子大学(Y校舎：演習室棟)にて開催した。本研究発表会では、以下の口頭発表と研究交流会を実施した。当日の発表などのスケジュールは下記の通りで、第四支部以外からの参加を含めた口答発表16件の発表が行われた。



1. 四支部研究発表会開会挨拶(益岡了支部長)
2. 口答発表第1セッション 10:05 - 11:40  
司会：益岡了 岡山県立大学  
1-1 野村 茅乃：ユーザー特性に対応した色の嗜好性の分析  
1-2 鉢嶺 悠美：汎用システムデザインによる商品デザイン  
1-3 池田 実優：FCA分析を用いた日本のアニメの変遷  
1-4 入部 桜子：新しいサービスデザインの提案  
1-5 安久 尚登：顔写真加工が対人印象に与える影響

3. 口答発表第2セッション 13:00 - 14:00  
司会：林 秀紀 岡山県立大学

2-1 明日香 鴻：高齢者におけるルーティンが作業精度に及ぼすポジティブな影響に関する研究



2-2 坂本 星：モバイル端末における振動が音声対話システムとの対話の印象に与える影響について

2-3 西山 尚登：外国人留学生の防災意識と地震災害時の自助能力に関する研究

2-4 松代 拓也：体験型ワークショップによる地域資産の魅力度向上に関する研究

-綾部市の地域資産・黒谷和紙を例に用いて

2-5 難波 祐成：車いす利用者向けのナビゲーション開発に向けた要件策定に関する研究

-連続記録型ドライブレコーダーを活用した道路上の障害の客観的類型化を通じて-

4. 口答発表第3セッション 14:30 - 16:00

司会：谷本 尚子 京都市立芸術大学  
3-1 鈴木 友理：企業と連携したワークショップにおけるデザイン創作の実践

3-2 林 秀紀：木育玩具の分類とその教育的効果の分析

3-3 西澤 菜月：宿泊施設予約サイト閲覧時におけるユーザ体験と視覚情報との関係の明確化

3-4 趙 英玉：中国苗族の「花帯」織文化の現代的意味性

3-5 森 亮太：緊急時におけるユーザのメンタルモデル構築度合いの測定

3-6 井上 勝雄：ポートフォリオを用いたユーザーエクスペリエンス分析法



5. 第四支部研究発表会 閉会(久保雅義副支部長)

6. 懇親会(16:00～)

## 第5支部

支部長 井上 貢一

第5支部では本年度も「学生デザイン展」と「研究発表会」の2つの事業を実施した。結果を以下のとおり報告する。

1. 第9回九州沖縄地区学生デザイン展

会場：九州芸文館大交流室・エントランスギャラリー(福岡県筑後市大字津島1131)

会期：平成29年10月19日(木)～28日(土) 作品プレゼンテーション 28日(土) 10:20～15:30

共催：NPO法人芸術の森デザイン会議、九州芸文館

第9回目となる学生デザイン展、九州沖縄地区会員の教育成果の共有を目的に、昨年同様に九州芸文館を会場として開催した。九州各地の7大学から77点の作品がエントリー。最終日には出品者の大半が作品のプレゼンテーションを行うという活気ある展覧会となった。10日間的一般来場者は993名と前年比で約150%に増加し、地域方々にも着実にデザインの魅力が伝わっている。毎年「優秀賞」と「作品賞」を選定しており、その結果は<http://afd9.com/SDE/>に掲載した。

2. 平成29年度第5支部研究発表会  
会場：九州芸文館 教室工房3, 4, 6(福岡県筑後市大字津島1131)

日時：平成29年10月22日(日) 9:00 - 19:30



学生デザイン展の様子

平成29年度の第5支部の研究発表会は、学生デザイン展の会期中の一日、

10月22日(日)に同会場内の研修室で行った。主催校は九州大学。今年は大学院生を中心に36件の研究発表が行われた。JR筑後船小屋駅から徒歩1分と会場の交通の便の良さから、遠方からの研究発表や聴講参加もあり、活発な意見交換がなされた。若い研究者の視点から新たな問題提起を行う場として、安定的に運営の継続がなされている。

## 本部事務局

### 本部事務局長 佐藤 弘喜

2017年度末の会員数は、正会員1,455名、学生会員数206名、名誉会員70名、賛助会員数29件、年間購読会員49件となっている。正会員と学生会員を合わせた会員数は1,661名で、昨年との同時期(1,695名)と比較して34名の減少となった。

昨年度は、法人化手続き後の最初の年度となったため、法人への本格移行の年となった。また法人化後初めての総会と役員選挙が実施された。これまでの移行手続きにあたっては、できるだけ従来の学会運営方法を変更せずに移行できるよう留意して進めてきたが、法人法に定められた手続きに従うため、一部従来の学会運営方法を変更する必要も発生した。具体的には予算処理、総会実施方法、役員選挙の手続きなどについて細部で見直しが必要となった。

それらに対処するために法人化対策特別委員会や外部顧問の公認会計士と連携し、会員の皆様の学会活動に支障が出ないように、できるだけスムーズな移行を進めてきたが、本部事務局としても初めての手続きで不慣れな面もあり、会員の皆様にご不便をおかけした部分についてお詫び申し上げたい。しかし本格移行から1年が経過し、法人としての運営も徐々に軌道に乗りつつある。今後も引き続き、必要な対応を行って手続きを進めていきたい。

## 教育部会

### 主査 金子 武志

平成29年度(2017年度)教育部会では、

去る2017年2月にご逝去された学会名誉会員の高山正喜久先生(享年99歳)を偲ぶとともに、これまでの先生の功績や活動、基礎デザインの教育理念を振り返る主旨で下記の3つの活動を年間を通じて実施した。

- ①高山先生に感謝する会の開催
- ②エッセイ集の編集/作成/発行
- ③デザイン教育研究会の実施

#### <活動概要>

- ①高山先生に感謝する会

平成28年9月21日(土)15:00~17:00

会場:東京市ヶ谷/美術出版社1階レストラン「クリオンタ」

企画:茂木一司(高山先生教え子代表,群馬大学教育学部教授),金子武志(教育部会主査),森香織(教育部会幹事)

参加者:約25名

会の主旨と実施概要:

私たちが敬愛してやまない高山正喜久先生が2017年2月10日に旅立たれた。遺族の希望で密葬にされたため先生の正式な訃報は納骨後かなり経ってから学会報などで知ることとなる。99歳という天寿を全うされた先生には、教育者としての長いキャリアと多くの教え子が存在するので、あちらこちらで偲ぶ会などが企画されていることを耳にもしており中々実現に至らずどうしたものか思案していたところ、先生に心から感謝しその遺徳を偲ぶ、このような皆様の心のつながりに頼る会は、あまり日にちをあげない方がよいと考え、取り急ぎ日本デザイン学会教育部会を中心に日時と会場を設定し、教育大・筑波大の教え子の方、桑沢デザイン研究所、美術教育関係の方を中心に声をかけ、ささやかな会を開催する運びとなった。

会場は高山先生が名著『立体構成の基礎』を出版された縁のある美術出版社本社ビルの1階にある小さなレストランで行った。狭いスペースだったが気心の知れた方ばかり約25名ほどのアットホームな会となる。懐かしい映像や写真なども編集し会場に流した。高齢の奥様の代わりにご令嬢もご参加くださり、私どもの知らない家庭人としての高山先生の横顔や、最期のご様子な

ども伺う事ができた。

(茂木一司氏の開催案内文よりまとめる)

② エッセイ集「高山先生の思い出」  
高山正喜久先生と交流のあったこれまでの教え子、デザイナー、デザイン学会教育部会の関係者、ご家族など23名に執筆を依頼し、高山先生にまつわる様々な思い出のエッセイ(約800~1000字)を投稿いただく。先生との関係性の中にデザインやものづくりに対する眼差し、教育理念、先生の人間性などが浮き彫りとなるエッセイ集が完成に至る。表紙には教え子の一人、グラフィックデザイナーU.G.サトー氏が描いた生前の先生のスケッチをご家族にお願いして掲載させていただく。教育部会にて責任編集、発行。発行部数100部。

執筆者:

梅田晴郎(東京教育大S.41卒)、金子武志(日本デザイン福祉専門学校教授、教育部会主査)、君島昌之(東京教育大S.43卒、学会名誉会員)、後藤雅信(千葉大学教育学部教授)、佐藤由美子(次女)、椎名輝世(昭和女子大元講師)、高橋昌彰(東京教育大S.40卒)、辻井咲子(東京教育大S.43卒)、常見美紀子(京都女子大学元教授)、中島千絵(玉川大学芸術学部教授)、西川潔(筑波大学名誉教授)、福田隆真(山口大学理事、副学長)、藤澤英昭(千葉大学名誉教授)、水上喜行(東京教育大S.41卒、大阪教育大学元教授)、三田村峻右(筑波大学名誉教授)、宮脇理(筑波大学元教授、東京教育大OB)、村松俊夫(山梨大学大学教育学域教授)、茂木一司(群馬大学教育学部教授) 森香織(日本大学芸術学部教授)、山本輝之(元大学教員 美術・デザイン基礎教育)、U.G.サトー(グラフィックデザイナー)、横山弥生(大同大学情報デザイン学科教授)、渡邊琢磨(東京教育大S.43卒)

- ③デザイン教育研究会

平成30年3月3日(土)15:00~17:00

会場:日本大学芸術学部 江古田校舎西棟共同アトリエ(練馬区江古田)

参加者：約35名

講師：君島昌之（日本デザイン学会名誉会員）

テーマ：『高山正喜久とデザイン教育』  
概要：

日本デザイン学会・教育部会は今から50年前、1967年4月東京教育大学でスタートした。この研究会を立ち上げ、基礎デザイン分野の第一人者として活躍された高山正喜久氏が昨年(2017年)2月10日、99歳で他界されたことを受け、氏の教え子の一人であり教育部会を牽引されてこられた君島昌之さん（東京教育大卒、日本デザイン学会名誉会員）にご登壇頂き、これまで幼児教育から大学院まで幅広く教育研究活動された氏の足跡を振り返るとともに、基礎デザイン教育の思考などを披露していただくとともに、君島氏はじめ多くの関係者が大きく感化されたベーシックな意識を如何にしてこれからのデザイン教育に活かすことができるか、というテーマのもと出席者と対話しつつ有意義な時間を共有する事ができた。会ではエッセイ集「高山先生の思い出」を研究会資料として配布し、更に出席者全員に高山氏との思い出やその影響をコメントしてもらい、氏を偲ぶ内容となった。

## 環境デザイン部会

主査 杉下 哲

平成29年度は、今期の後半として、昨年度の活動の継続、深化を目指し、専門性や志向性、実績、経験などに基づいた部会員相互の研究を更に行って、部会全体の一層の活性化に努めた。法人化した本学会の中で、新たな活動や運営の在り方、施策なども継続して考えた。具体的には下記である。

毎年設定する年間テーマは、「これからの仕組み—持続可能な環境デザイン」を継続した。そのもと、春季研究発表大会におけるオーガナイズドセッション「これからの仕組み—国産木材とデザイン」を企画・実施した。また、部会の九州ブロックの企画により、11月16日（木）に「熊本の震災復興と地域」として視察会を開催した。熊本県や熊本市等のご協力を得て、部会員は

もちろん関係する大学の学生達とともに貴重な機会を持つことができた。

部会の会報「EDPlace」は、6月に79号「卒業制作」、11月に80号「これからの仕組み—国産木材とデザイン」、3月に81号「熊本の震災復興と地域力」をそれぞれ特集した3冊をPDF配信により発行した。また、1985年に発行した「環境デザインの系譜」の改訂版などを検討した。

上記の活動とともに、本部会の位置づけや活動、運営、体制の在り方などを検討しながら、規約の作成を進めた。

次期は、主査を清水泰博氏、副査を山内貴博氏と私、事務局を平松早苗氏で進める予定（部会総会で決定）であり、宜しく願います。

## 家具・木工部会

主査 青木 幹太

平成29年度、家具・木工部会では、第64回春季研究発表大会会期中に研究部会総会を開催し、部会の進め方や現在、取組中の研究等について意見交換を行った。

## デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

平成29年度デザイン史部会では以下の発表形式の研究会を開催した。本年度も同様の研究会を開催予定である。

### ■第37回研究会

開催日：平成29年12月2日

テーマ：「日本地域デザイン史の編纂方法と12の事例」

発表者：澁谷邦男氏（東海大学名誉教授、北のデザイン研究所主宰）

場所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

### ■第38回研究会

開催日：平成30年3月17日

テーマ：「戦後デザイン発展期の体験から」

発表者：日野永一氏（兵庫教育大学名誉教授）

場所：マイスペース Cafe MIYAMA 渋谷公園通り店

## デザイン理論・方法論部会

主査 松岡 由幸

デザイン理論・方法論部会は、デザイン方法論部会を拡張するかたちで、2008年4月に設立された。春季大会では毎年、4、5件の企画セッションによる発表を継続するとともに、2016年度までに、15回以上のシンポジウムや研究会を実施し、デザイン理論・方法論の構築に努めてきた。

2017年度においては、拓殖大学で行われた春季大会にて、タイムアックスデザイン研究部会との合同企画セッションを1件開催し、5件の研究発表が行われた。

また、2017年7月21日には、慶應義塾大学において、当部会共催の「デザイン塾:プラスチックの逆襲—プラスチック独自の美とは何か—」が開催された。学生を含む約100名の方々にお越しいただき、活発な議論が行われ、盛況のうちに終了した。

さらに、日本デザイン学会編『デザイン科学事典』（丸善出版）の2018年刊行を予定とした編纂作業を進めた。

## ファッションデザイン部会

主査 常見 美紀子

平成29年度ファッションデザイン部会の研究例会は、以下の通り開催された。

開催日：2018年3月8日（木）

テーマ：「高等教育における被服デザイン教育 —宮下孝雄を事例として—」

発表者：鈴木桜子氏（杉野服飾大学）

場所：大妻女子大学千代田キャンパス

要旨：昭和23年から次々と創設された新制女子大学は、教養教育、職業教育を目的とし、中でも家政学部・被服学科は、それまでの家事・裁縫教育の流れから学科編成の中で大きな割合を占めてきた。その女子大学の一つ、東京家政大学で教授として教育に携わった凶案理論家宮下孝雄は、被服教育が技術偏重型であった中でデザイン教育を理論面から推し進めていったパイ

オニアであった。本発表では、宮下孝雄が被服デザインをどのように理論立てていったのかを宮下の著作から検証しつつ、更に現在的問題としてのファッション・デザイン教育についても考えていきたい。

今回の「高等教育における被服デザイン教育」という発表に対して、現在もファッションデザイン教育のなかでの「デザイン」は、なかなか難しく、今日的な課題であるため、参加者全員による活発な質疑応答は、長時間に渡った。最後に、課題を共有して、今後のファッションデザイン教育を行う必要性を確認して、研究会を終えた。

なお、平成30年度も同じように、開催する計画である

## 情報デザイン部会

主査 原田 泰

Info-D 主催の活動を、時系列に報告する。

・研究会開催

2017年5月19日(金)

会場：ヤフー株式会社 会議室

参加者：9名

開催決定したオーガナイズドセッションBの登壇予定者で集まり、事前ミーティングを開催した。

・オーガナイズドセッション主催

2017年7月1日(土) 15:00-17:00

OS-B : デザイン研究における記述方法としての「視覚化」

会場：拓殖大学 文京キャンパス E 棟 E406 教室

第64回 春季研究発表大会のプログラムとして、オーガナイズドセッション

を主催した。情報デザインという市民

のあらゆる生活を横断する実践分野を

対象としたデザイン 研究の方法、デザイン研究者の役割について、再定義を試みようという企画である。認知科学、人工知能、フィールドワーク、グラフィックレコーディング、当事者デザインなど、これからのデザイン研究の方向性のヒントをつかむことができた。

・部会開催

2017年6月30日(金) 16:10-17:00

会場：拓殖大学 文京キャンパス E 棟 E802 教室

第64回 春季研究発表大会のプログラムとして用意された枠を利用して、部会を開催した。新しいメンバーも多く、それぞれの現在の研究や関心事についてのキーワードを出し合った。

・研究会開催

2017年9月1日 10:00-18:00

会場：ヤフー株式会社 会議室

参加者：15名

オーガナイズドセッションの続きを、という趣旨で「デザイン研究の記述」研究会を開催した。参加者個々の研究テーマを題材に、それぞれの研究の進め方や記述方法についてディスカッションを行なった。

・部会開催

2017年10月15日(日) 14時~15時30分

会場：まるたまスクエア(北海道函館市元町2)

参加者：16名

Info-D と第1支部の合同部会という形で開催した。春季大会でのオーガナイズドセッションの報告と、今後の活動計画について議論した。

・研究会開催

2018年2月26日~27日

2日間に渡り、「フィールドワーク」と「体メタ認知」をテーマとした、ワークショップ形式の研究会を開催した。

2018年2月26日 10:00-18:00

「覚王山フィールドワーク」

活動拠点：LDK 覚王山(愛知県名古屋千種区田代本通2-1)

2018年2月27日 8:00-21:00

「社会実践型ラボラトリー in 豊田市」活動拠点：三州足助屋敷(愛知県豊田市足助町飯盛36)

## 子どものためのデザイン部会

主査 岡崎 章

・第64回春季研究発表大会では、開催校マターとしてオーガナイズドセッションA「慮るデザイン」を実施した。ロボティクス、義肢装具士、家族看護学、感性科学の専門家からそれぞれ

「ロボティクスの広がりに必要なことは」、「義肢製作における対話の重要性とは」、「家族から見る看護の重要性とは」、「人の心を知ろうとするデザインとは」というタイトルでお話しをしていただくことで、異なる分野から示された「人の心を慮る」とはどういうことなのかを深く考える機会となった。また、その後のディスカッションから今後のデザインに活かす多くの知見を得ることができた。専用サイトは以下である。

<http://omonpakaru-jssd2017.strikingly.com/>

・春季研究発表大会における部会のテーマセッションでは、9件の発表があり、「展示施設の観覧ルートに沿った主観的評価マップ」(政倉祐子 他2名)がグッドプレゼンテーション賞を受賞した。

・部会ワークショップをKDSS2017(感性デザインサマーセミナー)との共同開催として9月1日~3日にナチュラルファームシティ農園ホテルで実施した。7大学の教員、学生など約50名が集い、研究発表とワークショップを行った。

なお、子どものためのデザイン部会のサイトは、以下である。

<https://www.facebook.com/design.fo.r.children.jp/>

## プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

本年度の主な活動は、1) 関連団体(人間中心設計機構、X デザインフォーラム等)とのイベントの開催、2) プロダクトデザイン研究に関連する情報発信(日本デザイン学会 Web サイト、プロダクトデザイン研究部会 Facebook 等)などの活動であった。9月24日に開催された「第3回Xデザインフォーラム、プレイフルな学びとオープンなデザイン」ではXデザインフォーラムとイベントの開催協力をした。

## タイムアクシスデザイン研究部会

主査 寺内 文雄

本研究部会は、大量消費や大量廃棄による地球温暖化、エネルギー問題の深刻化、および精神的な豊かさの欠乏などの諸問題に対応可能なデザインコンセプトの1つであるタイムアクシスデザインに注目し、これに基づくデザイン理論、方法論、および方法の構築を目的としている。

2017年度においては、拓殖大学で行われた春季大会にて、デザイン理論・方法論研究部会との合同企画セッションを1件開催し、5件の研究発表が行われた。

また、2017年7月11日、10月17日、2018年3月1日にはタイムアクシスデザインをテーマとした車座の会が開催され、研究者、技術者、および教育者など様々な立場から具体的な事例や手法などについて活発な議論がなされた。

## 第2号議案

### 2017年度 収支決算報告

#### I 貸借対照表

##### 貸借対照表 (平成30年3月31日現在)

単位:円

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	7,249,299	流動負債	335,820
現金及び預金	7,249,299	未払金	265,820
		未払法人税等	70,000
固定資産	0	固定負債	
有形固定資産		負債合計	335,820
無形固定資産		(純資産の部)	
投資その他の資産		一般正味財産	6,913,479
		純資産合計	6,913,479
資産合計	7,249,299	負債・純資産合計	7,249,299

#### II 損益計算書

##### 損益計算書 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)

単位:円

科目	金額	
【経常損益の部】		
(経常収益)		
事業収益	25,391,417	
正会員年会費	16,047,000	
新入会員	1,510,000	
賛助会員	759,568	
年間購読会員	1,051,000	
学生会員	1,131,000	
学会誌掲載負担金	2,035,000	
概要集売上金	1,977,500	
作品応募料	114,000	
雑収入	766,349	
財務収益	108	
受取利息	108	25,391,525

(経常費用)		
事業費用	15,022,515	
オンデマンド印刷	1,046,034	
論文審査委員会	700,000	
作品審査委員会	272,809	
論文集	1,756,177	
特集号	6,327,072	
概要集	1,205,820	
大会補助費	275,990	
オーガナイズドセッション	246,434	
学会各省選考委員会	59,406	
国際デザイン会議	52,500	
研究部会活動補助費	285,530	
支部活動補助費	544,851	
広報費	54,176	
委員会経費	6,000	
学術関連	192,920	
出版通信費	1,062,598	
概要集編集委員会	401,660	
特別号編集委員会	260,000	
総会準備経費	14,850	
封筒費	257,688	
管理費用	10,304,324	
給料手当	4,570,000	
理事会運営費	803,981	
選挙経費	93,135	
通信費	634,560	
消耗品費	266,648	
水道光熱費	129,326	
支払手数料	151,431	
賃借料	1,800,000	
保険料	69,992	
租税公課	36,650	
支払報酬料	875,800	
経營業務コンサルタント料	108,000	
通勤費	199,280	
印刷費	177,126	
運営経費	126,540	
慶弔費	106,200	
雑費	155,655	25,326,839
経常利益		64,686
(経常外損益の部)		
経常外収益		
経常外費用		0
税引前当期純利益		64,686
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期純利益		-5,314

### Ⅲ 決算書

2017年度(2017年4月1日-2018年3月31日)決算報告

[一般会計]

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
任意団体日本デザイン学会から移行	6,918,793	6,918,793	0	6,918,793
1 会費(現)	16,109,600	16,541,000	431,400	正会員@13,000×1,234名 16,047,000 学生会員@6,500×76名 494,000
2 会費(新)	2,000,000	2,147,000	147,000	正会員@18,000×84名(一般入会金:5,000,年会費:13,000) 1,510,000 学生会員@6,500×98名(学生入会金:免除,年会費:6,500) 637,000
3 賛助会員費(現)	860,000	759,568	-100,432	27件 759,568
4 賛助会員費(新)	30,000	0	-30,000	0件 0
5 年間購読会員費(現)	1,275,000	1,051,000	-224,000	@25,000×43件 1,051,000
6 年間購読会員費(新)	25,000	0	-25,000	0件 0
7 広告費	50,000	0	-50,000	0件 0
8 学会誌掲載別刷料・負担金	3,275,000	2,149,000	-1,126,000	論文掲載料 1,355,000 作品集審査費 114,000 作品集掲載料 520,000 2016年度作品集掲載料・加工印刷負担金 160,000
9 概要集売上金	1,925,000	3,500	-1,921,500	@3,500×1冊 3,500
10 春季研究発表大会	0	5,496,204	5,496,204	参加費 3,322,000 研究発表費 1,139,000 懇親会 652,000 エクスカーション・昼食 103,200 企業展示 280,000 預金利息 4
11 秋季企画大会	0	705,500	705,500	補助金(函館市) 200,000 参加費 177,500 レセプション参加費 328,000
12 雑収入	820,000	766,457	-53,543	学会誌売上 182,400 NII-ELS還元金、補助金、預金利息等 583,697 その他 360
13 寄付金	0	0	0	0
計	33,288,393	36,538,022	3,249,629	36,538,022

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
<b>本部事務局&amp;理事会関係</b>	<b>11,729,280</b>	<b>10,268,124</b>	<b>-1,461,156</b>	
1 本部事務局経費	10,279,280	9,371,008	-908,272	消耗品代 266,648 運営経費(春季大会出張費用含む) 126,540 職員給与(@180,000×12,@230,000×2)+(@150,000×12,@75,000×2) 4,570,000 通勤費(@6,000×12)+(@13,820×4,@6,000×12) 199,280 施設設備費 0 通信費及び電話代金 634,560 印刷代 177,126 雑費 155,655 会費引落経費 151,431 賃料(@150,000×12ヶ月) 1,800,000 光熱費 129,326 アルバイト雇用費(宛名整理,書類作成,発送,名簿管理補助等) 875,800 経営業務コンサルタント料 108,000 租税公課 36,650 法人税、住民税及び事業税 70,000 労災保険料 69,992
2 理事会運営費	1,050,000	803,981	-246,019	会場借用料、理事会運営経費等 803,981
3 選挙経費	400,000	93,135	-306,865	選挙に関する費用 93,135
<b>出版関係</b>	<b>1,395,000</b>	<b>1,232,809</b>	<b>-162,191</b>	
4 論文審査委員会経費	700,000	700,000	0	700,000
5 作品審査委員会経費	275,000	272,809	-2,191	作品集編集費 272,809
6 学会誌編集・出版委員会経費	30,000	0	-30,000	0
7 特集号編集委員会経費	390,000	260,000	-130,000	第25巻1号編集委員会 130,000 第25巻2号編集委員会 130,000 第26巻1号編集委員会 0
<b>学会誌印刷・通信関係</b>	<b>11,914,800</b>	<b>11,855,389</b>	<b>-259,411</b>	
8 印刷費	10,414,800	10,592,791	177,991	2017年度論文集 198,720 2017年度特集号(2冊) 1,161,540 2017年度作品集 482,652 論文集 1,557,457 特集号(2冊) 4,682,880 作品集 0 論文集・作品集オンデマンド印刷費 1,046,034 概要集USEX(706冊印刷)プログラム印刷費 1,205,820 封筒代 257,688
9 出版物通信費	1,500,000	1,062,598	-437,402	郵送料・事務代行料金 1,062,598

大会関係		2,660,000	5,278,544	2,618,544	
10	2017年 春季研究発表大会	500,000	2,798,160	2,298,160	プログラム・カンファレンスキット 講演料等 アルバイト 雇用費 会場費・会場設営費 懇親会費・会議費 通信・運搬費 雑費
11	2017年 秋季企画大会	500,000	1,205,534	705,534	印刷費 講演料等 アルバイト 雇用費 会場費・会場設営費 ワークショップ実施 懇親会費 雑費
12	2018年度春季研究発表大会	500,000	500,000	0	準備費
13	春季大会概要集編集	250,000	401,660	151,660	アルバイト 雇用費(2017年度分) 演題登録システム( PASPEEG ) 利用料(2017年度春季分)
14	春季オーガナイズトセッション費用	320,000	246,434	-73,566	4件
15	学会セミナー費用	100,000	0	-100,000	
16	総会準備経費	30,000	14,850	-15,150	総会経費、委任状・資料印刷代
17	学会各賞選考委員会経費	100,000	59,406	-40,594	書類作成費(学会各賞推薦状・資料・記念品代等)
18	国際デザイン会議	360,000	52,500	-307,500	国際デザイン会議会費(500\$) 国際デザイン会議活動費(運営会議活動費)
委員会関係		1,400,000	836,381	-563,619	
19	委員会経費	200,000	6,000	-194,000	1 委員会
20	研究部会共通経費	400,000	285,530	-114,470	共通費(6研究部会)
21	支部活動補助費	750,000	544,851	-205,149	5支部
22	市販図書企画・編集経費	50,000	0	-50,000	編集費
広報関係		600,000	54,176	-545,824	
23	広報費	600,000	54,176	-545,824	大会ポスター、ちらし作成費・通信費 63回大会 ホームページリニューアル ホームページ管理・運営
その他		3,589,313	7,212,599	3,623,286	
24	学協会関連	275,000	192,920	-82,080	学術会議活動費( @30,000 + @30,000 ) 藝術学関連学会連合シンポジウム分担金 日本工学会活動費 日本工学会会費 CPD協議会会費 日刊工業新聞社 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費
25	予備費	3,314,313	106,200	-3,208,113	慶弔費 その他
26	繰越金	0	6,913,479	6,913,479	
計		33,288,393	36,538,022	3,249,629	

[ 特別会計 ]

	2016年度	2017年度	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	20,360,010	20,361,680	1,670	利息(¥1,670): 基金に繰り入れ

2017年度収支決算につき、上記のとおりご報告いたします。

2018年5月30日 一般社団法人 日本デザイン学会

本部事務局長 佐藤 弘喜 本部副事務局長 小野 健太 本部事務局長 松原 久代

幹事 山中 敏正 幹事 生田目 美紀

## 第3号議案

### 2018-2019 年度 役員選任 理事

蘆澤雄亮*	井口壽乃	池田岳史	池田美奈子	大島直樹
岡崎章	岡田栄造	小野 健太	柿山浩一郎*	加藤大香士
加藤健郎	加藤三喜	上綱久美子	工藤芳彰	國本桂史
久保雅義	久保光徳	黄ロビン	小林昭世	小山慎一
佐藤浩一郎	佐藤弘喜	杉下哲	田村良一	永井由佳里
永盛祐介*	生田目美紀	原田泰	平松早苗	細谷多聞
松岡由幸	村上存*	森田昌嗣	両角清隆	柳澤秀吉*
山中敏正	横溝賢			

(50音順, \*は特設理事)

### 監事

國澤好衛	佐々木美貴
------	-------

## 2018-2019 年度 委員会等一覧 (案)

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	佐藤弘喜	小野 健太 佐藤浩一郎	加藤健郎

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	久保光徳 村上存*(副)	池田岳史 加藤健郎 小山慎一 佐藤浩一郎 両角清隆 柳澤秀吉*	
作品審査委員会	杉下哲 小林昭世(副)	加藤大香士 上綱久美子 永盛祐介* 細谷多聞	水谷 元 高梨 令
学会誌編集・出版委員会	井口壽乃	加藤三喜	
研究推進委員会	小林昭世	蘆澤雄亮* 柿山浩一郎*	
企画委員会・総合企画	岡崎章	加藤健郎 森田昌嗣	
企画委員会・支部企画	平松早苗	黄ロビン 久保雅義 田村良一 横溝賢	
教育・資格委員会	佐藤浩一郎	加藤健郎	
広報委員会	大島直樹	蘆澤雄亮* 加藤三喜 永盛祐介*	
財務委員会	生田目美紀	小野健太	
市販図書企画・編集委員会	加藤健郎	佐藤浩一郎	蘆澤雄亮*
春季研究発表大会概要集編集委員会	永井由佳里	柿山浩一郎* 永盛祐介*	

支部	支部長	副支部長	幹事
第1支部(北海道・東北地域)	横溝賢	原田泰	
第2支部(関東地域)	平松早苗	工藤芳彰	森山貴之
第3支部(北陸・中部地域)	黄ロビン	國本桂史	
第4支部(近畿・中国・四国地域)	久保 雅義	岡田栄造	
第5支部(九州・沖縄地域)	田村良一	池田美奈子	

学会各賞選考委員会	委員長	委員	
<協力委員会>	青木弘行	庄子晃子	杉山和雄
論文審査委員会		原田昭	松岡由幸
作品審査委員会		宮内愨	宮崎清

		森典彦	山中敏正 (担当)
<b>委員会等担当</b>	<b>担当</b>		
Design シンポジウム担当	松岡由幸	小林昭世	加藤健郎
デザイン関連学会シンポジウム担当	松岡由幸		
IASDR 担当	山中敏正	小野健太	
日本学会会議担当	小林昭世(第一)	村上存*(第三)	
日本工学会担当	村上存*		
横幹連合担当	蘆澤雄亮*		
機械工業デザイン賞審査委員会担当	小林昭世		

<b>運営会議</b>	松岡由幸 小林昭世 佐藤弘喜 小野健太 佐藤浩一郎 久保光徳 村上存* 杉下哲	井口壽乃 岡崎章 平松早苗 工藤芳彰 大島直樹 加藤健郎 生田目美紀 小山慎一	柳澤秀吉* 上綱久美子 永盛祐介* 加藤三喜 蘆澤雄亮* 山中敏正 國澤好衛
<b>選挙管理委員会</b> ※2019年7月31日まで	<b>委員長</b>	<b>委員</b>	
	井上征矢	永見豊 八馬智 吉澤陽介 永盛祐介	

<b>監事</b>	國澤好衛	佐々木美貴
-----------	------	-------

# 2018 年度日本デザイン学会組織（案）



## 2018年度事業計画(案)

### 論文審査委員会

#### 委員長 久保 光徳

2018年度は、デザイン学領域の研究・教育基盤のさらなる向上に資することを目的として活動を推進していく。そのために、1名の副委員長、6名の論文審査委員という体制で臨み、さらなる学際的な研究討議・意見交換を誘発できる運営を行う予定である。本年度における具体的な活動の1つとして、昨年発刊された国際論文誌“Journal of Science of Design”の学術水準の確保と審査機関の短縮を目的としたEditorial制度の検討を行う。2019年度の運用を目指して、副委員長の村上存先生と委員の柳澤秀吉先生を中心に制度の整備を行っていただく予定である。

また、昨年度に引き続き、多くの会員の皆様にご投稿いただけるよう、迅速な対応を推進していく。

論文審査委員会副委員長：村上存、委員：池田 岳史、加藤 健郎、小山 慎一、佐藤 浩一郎、両角 清隆、柳澤 秀吉

### 作品審査委員会

#### 委員長 杉下 哲

今期(2018-2019年度)はよろしくお願いいたします。2018年度は、電子化の刊行が定着した「デザイン学研究・作品集」の、より一層の充実を目指す。予定する24巻(2018)1号は、これまで同様に、2月に刊行するため、8月20日～8月31日を「作品論文」「作品ムービー」の投稿期間とし、その後審査を開始する予定である。今後の広報ならびに日本デザイン学会 Web ページをご確認いただきたい。皆様が設計・制作したデザイン成果とその実現過程での研究・開発や思考プロセスなどの発表に、今後とも貢献する所存である。作品審査委員会メンバーは、杉下哲、小林昭世、加藤大香士、上綱久美、永盛祐介、細谷多聞の各理事と幹事数名を予定している。

### 学会誌編集・出版委員会

#### 委員長 井口 壽乃

今年度の特集号は昨年の春季・秋季全国大会のテーマより編集し、以下2冊の発行を予定している。

26巻1号(99号)「慮るデザイン」(担当：大島直樹)、27巻2号(100号)「共創・当事者デザイン」(担当：岡本誠)

デザイン学の研究領域が拡大するなか、学会として学術的かつ魅力的な特集号となるよう努める所存である。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いしたい。尚、今年度より編集委員会に加藤三喜が加わり、幹事として伊原久裕、田中佐代子が担当となる。

### 研究推進委員会

#### 委員長 小林 昭世

研究推進委員会の活動は、1 研究部会の活性化 2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営 3 秋季企画大会における企画運営 などである。2018年度は以下の活動を行う。1 大阪工業大学で開催される春季研究発表大会においてテーマセッションを募集する。2 九州大学で開催される秋季大会にて学生プロポジションを準備する。

2018年度担当理事：蘆澤雄亮、柿山浩一郎

### 企画委員会 総合企画

#### 委員長 岡崎 章

2018年度の企画委員会〔総合企画〕の本年度の主な活動計画は、次のとおりである。

第65回 春季研究発表大会が、2018年6月22日(金)～24日(日)に大阪工業大学 梅田キャンパスにて「デザインの時代」を大会テーマに開催される。秋季企画大会は、九州大学において「平成のデザイン、次代のデザイン」を大会テーマに10月12日(金)～14日(日)の開催が予定されている。学生プロポジションは、大橋キャンパスにて10月13日(土)13:00～14:30に予定されて

いる。詳細については、開催校サイトで確認の上、応募いただきたい。

会員の皆様には聴講・アドバイスをお願いいたします。本年度の委員は、岡崎 章(拓殖大学)、森田昌嗣(九州大学)、加藤健郎(慶應大学)の3名。

### 企画委員会 支部企画

#### 委員長 平松 早苗

2018年度の企画委員会「支部企画」は、現在各支部で実施されている支部研究発表や見学会・講演会等の活動状況の把握を行い、その上で支部企画としての連携の可能性や、全国区での発表の仕方の可能性を探るものである。本年度委員は横溝 賢(第1地区)、平松早苗(第2地区)、黄ロビン(第3地区)、久保雅義(第4地区)、田村良一(第5支部)

### 教育・資格委員会

#### 委員長 佐藤 浩一郎

2018年度は、学会活動方針である「研究・教育基盤の向上」を目的とした「教育」の活動を主として推進していく。

本年度は、2018年出版予定の『デザイン科学事典』をはじめとした教科書的な市販教材を用いた講習会やセミナーを実施する予定である。講習会やセミナー実施により、研究の質を高めるとともに、同領域における研究活動の活性化や事業としての展開が期待できる。また、他団体との連携やリカレント教育を視野に入れたセミナーの検討も行い、社会的貢献と学会の知名度向上を目指していく。

### 広報委員会

#### 委員長 大島 直樹

本年度の広報委員会は、Web サイトにおける広報活動をさらに強化する。具体的には、Web サイトの見やすさや使い勝手を向上させるため、部分的なリデザインを検討する。

また昨年度に引き続き、各支部・部会・委員会のニュース投稿をさらに活

性化するため、Web サイトへの投稿方法やマニュアルの周知を図る。さらに英文ジャーナルのページも新規追加し、広く成果を広報する予定である。

## 財務委員会

委員長 生田目 美紀

一般社団法人としての学会運営に伴い、監事ならびに外部監査を委託している公認会計事務所と連携して、学会会計の厳正な管理を行う。また、本部事務局とも密接に連携し、大会・支部会計の適正化を推進する。

今年度の活動計画として、以下の4点に注力する。

- ・法人法に即した学会会計の適正化
- ・税務に対する理解と適切な会計処理
- ・財務基盤の健全化への取り組み
- ・学生会費、大会参加費などの見直し

## 市販図書企画・編集委員会

委員長 加藤 健郎

本委員会は、これまでの活動方針を引き継ぎ、「デザインの知を支える学会の図書企画・編集」に取り組んでいきたいと考えている。主な活動として、最優先事項である日本デザイン学会編『デザイン科学事典』の編纂（平成30年度刊行を目標）を進めていく。また、市販図書の継続的な出版のために、デザインのテキストシリーズの企画を検討するとともに、それらをイベントやセミナーの企画につなげるように取り組んでいく予定である。関係者の皆様方には、今後ともご協力をお願いしたい。

## Design シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

本シンポジウムは、日本デザイン学会をはじめ、デザインや設計を上位概念とする日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している。

2019年度は、当学会が幹事学会として、慶應義塾大学において、基調講演、研究発表、パネルディスカッションなどによる会議を開催する予定であり、本年度はその準備を進める年度である。本学会からの委員は、松岡由幸、加藤健郎、小林昭世、永井由佳里、小野健太。

## デザイン関連学会シンポジウム担当

松岡由幸

本シンポジウムは、2016年度秋季企画大会において、意匠学会、芸術工学会、道具学会、基礎デザイン学会の各会長が集合したことをきっかけとして継続的に年1回実施されはじめた。

2017年9月30日には、意匠学会が幹事学会として、京都工芸繊維大学にて開催された。テーマは「バウハウスとデザイン思想」であり、本学会からは松岡が講演者として参加した。

また、2018年度においては、すでに、芸術工学会が幹事学会として、5月20日に九州産業大学にて実施された。テーマは「人工知能×デザイン」であり、創造性や哲学などに関する様々な議論がなされた。

2019年度には、道具学会が幹事学会として実施予定であるが、これについては、当学会への協力要請も出ており、今後、参加する学会員の増加を視野に入れ、検討を進めていく予定である。

## IASDR担当

担当理事 山中 敏正

IASDR2019 マンチェスター大会に向けての準備を進める年である。2月、IASDRのホームページの契約が終了し、ホームページアドレスが使用不能になったことが報告された。急遽、理事会でメール審議を行い、iasdr.net を取得し、新規HP制作費用を確認して作り直すことになった。4月16日にオンラインで理事会を開催した。

Lee Kun-Pyo 氏の会長退任に伴うKSDSからの理事としてByung-Keun Oh

氏が就任など、運営体制のUpdateが進んでいる。

今年の最大の課題は2019の準備であり、何よりも先ずスケジュール決定を急ぎ、HPの更新、過去の大会のアーカイブなどを進めていきたい。

## 日本学術会議

### 第一部/人文・社会科学

担当理事 小林 昭世

日本デザイン学会を含む16学会よりなる芸術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2018年度は、永田靖、小菅隼人（日本演劇学会）、藤田治彦（意匠学会）、小林昭世（当学会）をオーガナイザーとして、6月2日（土）、慶應義塾大学にて、「藝術と教養-藝術は教養たり得るのか？」を開催する。

## 横断型基幹科学技術

### 研究団体連合

担当理事 蘆澤 雄亮

横幹連合では4月27日に開催された2018年度定時総会において2018（平成30）年度の方針が確認された。その中で、第9回横幹連合コンファレンスについて「社会の発展と文化の深化をもたらす知の統合へ向けて」というテーマで実施することが確認された。また、コトづくりの記述化・見える化を目的とした「コトづくり至宝発掘事業」の試行版が実施されることが決定した。これらの方針は日本デザイン学会の活動目的と合致するものであり、学会として積極的に関与していく予定である。

## 第1支部

支部長 横溝 賢

第1支部は、第9回目の支部大会を10月に秋田市（幹事校・秋田大学）で開催する。本年度も「地域に開かれた学会」を活動のコンセプトとし、会員・学生会員の他、市民活動家の参加を呼び込み、生活世界に生起しつつあるデ

デザインの旬を捉え、旬を味わうための研究交流を促進する。

研究発表は、口頭、ポスター発表のほか、ライトニングトークとグラフィックレコーディングを組み合わせた発表形式を継続する。学会員だけでなく市民や社会人による多様なデザイン活動を一挙に公開し、研究交流を通じて各々のデザイン知を可視化できる発表形式の確立を模索する。

大会の開催概要は詳細が決まり次第、Webなどで告知する。支部内だけでなく支部外を含む多方面からの参加を期待したい。

また支部内のデザイン学会 会員間交流の活発化や新規会員の増加を目指して行きたい。

## 第2支部

### 支部長 平松 早苗

昨年度の支部企画である、2020年の東京オリンピックに関連した「おもてなし」の玄関である成田空港の見学会に引き続き、「おもてなし～コミュニケーションデザイン」へと展開するべく、企画を検討している。詳細が決まり次第ホームページやメールなどでご案内する予定である。多くの皆様にご参加いただければ幸いである。

## 第3支部

### 支部長 黄 ロビン

第3支部では、今年度も会員の活動・研究を相互に知り合い交流を深めるため、支部研究発表会と懇親会を実施する。発表内容はISSNを取得した「一般社団法人日本デザイン学会第3支部研究発表会概要集」にまとめ、国立国会図書館などに収録する。この支部研究発表会では、学生の口頭発表とポスター発表を対象とし、優秀発表賞を設けて表彰する。

次に、学会会員が所属する学校の卒業研究などに対し、大学院生2名/学部生2名に「年間研究奨励賞」を贈る。

なお、今年度は新規企画の検討や幹事会メンバー増員等の強化体制を進め

ていきたい。

## 第4支部

### 支部長 久保 雅義

第4支部では、まず6月の春季大会に注力し、次いで従前からの①ユニバーサルデザイン研究会、②インタラクティブデザイン研究会、③地域文化研究会、④近畿・中国(四国)地区の学術研究活動などの研究活動を引き続き推進していく。

また、支部全体活動として来年1月に支部研究発表会を予定している。さらに、特別講演会を秋季～冬季にかけて2回程度開催し、デザインの幅や奥行きを実感していきたく考えている。支部研究発表会、特別講演会は、ホームページなどで案内し、支部構成員以外の参加も歓迎する。

## 第5支部

### 支部長 田村 良一

第5支部では、2018年度日本デザイン学会秋季企画大会が九州大学・大橋キャンパスで開催予定であることから、参加者や発表数の増加、交流の活発化などを目指し、「研究発表大会」については秋季企画大会と同時開催、「学生デザイン展」については、秋季企画大会で開催される学生プロポジションに統合するかたちで準備を進めている。

前者については、秋季企画大会と同時開催になるため、第5支部の皆様のみならず、他支部からの多くの皆様の参加、発表を歓迎する。なお、会員の皆様へは、第5支部からWeb等を通じてご案内を差し上げる予定である。

後者については、学生プロポジションに統合されるが、例年どおり九州沖縄地区のデザイン教育の成果を情報共有する場となるとともに、他支部からの参加者との活発な交流の場になることが期待される。また、出展者の学生諸君には秋季企画大会のプログラムにも参加いただい、学会活動への関心を高めてもらうことを期待する。なお、会員の皆様へは、担当委員会からWeb等を通じてご案内を差し上げる予定で

ある。

## 本部事務局

### 本部事務局長 佐藤 弘喜

本年度は法人移行後初の役員選挙結果による新体制となる。本格移行後1年が経過したことから法人としての体制も軌道に乗ってくると思われるが、まだ引き続き制度変更に伴う新たな業務や課題が発生することも予想される。今後も必要な事務手続きなどについて検討し、会員の皆様の学会活動に支障が出ないように進めていきたい。またその過程で問題が発生しないよう、随時メールや学会ホームページを通じて、会員の皆様への周知をはかって進めてい期待と考えている。そして法人化により必要となる対処の見通しが立つにしたがい、今後はかねてより懸案となっている、学生会員をはじめとする会員数増加への取り組みを検討し、具体化していきたいと考えている。また従来同様、引き続き各委員会活動や支部活動に対するサポートなどを推進し、学会活動を支援していきたい。事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えた対応を心がけていく方針であり、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である。

## 教育部会

### 主査 金子 武志

年間テーマは特に設定せず関係の方々からのリクエストや旬な話題に応じたフレキシブルな研究会を年2～3回実施する予定。

私たち教育部会ではデザイン教育を起点に「教え学ぶ」という人々の根本的なあり方を広い視野で見つめて行く必要性をここ数年感じている。

「デザイン」が「もの」に対する視点から「こと」「こころ」「関係性」にまで広がりをみせ、同時に非常に多岐にわたるジャンルや領域を内包していることから現在では学校教育という枠を越え、家庭、地域、企業、各種メディアなど、社会のあらゆるところに教

育の場と機会が存在する時代となった。今や「デザイン」は一部の専門家の所有物ではなく、そのための教育も（教えることも学ぶことも）様々な立場の人達と共に考えていく時代である。「デザイン」が「自然」「社会」「人間」を有機的に繋いでいく術であるとするれば、デザインの仕事に直結するデザイナー教育に限らず、創造性をはぐくみ人間性を高める教養としてのデザイン教育もある。こどもや老人のためのデザイン生涯教育、一般企業の中のデザイン教育、人々が豊かに暮らすための地域市民のためのデザイン教育…。これらについて現在の教育機関を越えたところで誰もが自由に語り合えることを目指していきたい。今年度も視野を拡げたテーマを見つけて皆さんと対話したいと考える。

## 環境デザイン部会

主査 清水 泰博

本年度の環境デザイン部会は、今期前半として、昨年度まで最近の年間テーマに共通するサステイナブル・デザインを継承した活動を予定している。日常生活のためにあるデザインを紐解く、これからの仕組みへ向けて、人やモノ、場、時、コトなどの関わりに基づいた、持続可能な環境デザインを考え続ける。設定する年間テーマに従った、見学会や講演会などの企画・実行を予定している。特に、部会員の企画・実行に関わる様々な支援に努め、部会の活性化を図る。

一方、創設時から続く部会の会報「ED Place」は、これまで同様に、年間3回の発行を予定している。電子化による発行を拡大深化するため、部会内はもちろん、部会外への発信なども試行する。出版計画も継続的に企画化し、書籍などの発行準備を予定している。また、法人化された本学会の中で、本部会の位置づけや活動、運営、体制の在り方などを規約として明らかにする。

これら予定は、7月の部会総会で協議して具体的な内容を定めるが、積極的に環境デザインを考えるという部会の趣旨の元、上記の他にも追加企画などを検討していく所存である。部会員

相互の研究の深化と実行を中心に、学会内外の協力を得て、本年度も活発に進めていきたいと考えている。

## 家具・木工部会

主査 青木 幹太

平成30年度は会員間の情報交流を促進し、この分野の研究発表の増加に努めたい。

## デザイン理論・方法論部会

主査 松岡 由幸

本年度は、デザイン科学の基盤構築を結実する『デザイン科学事典』（丸善出版）の出版に向けて、編集を加速させる。現在も編集委員が中心となり、編集作業を行っている。

また、6月に大阪工業大学で開催される春季大会ではテーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」が企画されている。

さらに、2018年7月には、慶應義塾大学において、デザインの理論や方法論に関する研究・作品発表会として「デザイン塾」を開催する予定である。当塾は、毎年、国内外からデザイナー、設計者、実務者、および教育者など様々な領域の方々にご参加いただいている。詳細については決定次第お知らせする。

## 情報デザイン部会

主査 原田 泰

情報デザイン研究部会 Info-Dでは、「デザイン研究の記述」をテーマとした研究会、「社会人デザイナーにとってのデザイン研究」をテーマとした研究会を継続的に開催予定である。

## 子どものためのデザイン部会

主査 岡崎 章

2018年度は、例年どおり春季研究発表大会においてテーマセッション「子どものためのデザイン」における発表

と活発な議論から学術的視点に立った評価と検討の場とする。

9月7日～9日に、部会ワークショップをKDSS2018（感性デザインセミナー）との共同開催を予定している。昨年度同様、デザイン分野以外の専門家からテーマをいただき問題解決手法を新たに実施したいと考えている。

子どものためのデザイン部会のサイトは、以下のURLである。部会員の研究サイト紹介、ワークショップ報告などを積極的に公開していきたいので、記載内容データを主査もしくは幹事までお送りいただきたい。

([https://www.facebook.com/design\\_for.children.jp/](https://www.facebook.com/design_for.children.jp/))

## プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

本年度の活動計画については現在検討中であるが、1) プロダクトデザイン研究部会の開催、2) 関連団体(人間中心設計機構、X デザインフォーラム等)とのイベントの開催、3) プロダクトデザイン研究に関連する情報発信(日本デザイン学会 Web サイトとプロダクトデザイン研究部会 Facebook等)などの活動を計画していく予定である。また、今後の検討として研究領域(例えば、エクスペリエンス等)の検討なども、検討していきたいと考えている。

## タイムアクシスデザイン研究部会

主査 寺内 文雄

昨年度に引き続き、当該分野と関連の深い「デザイン理論・方法論研究部会」と連携するとともに、様々な領域の方々との議論を進めていく。それらを通して、タイムアクシスデザインの本質や課題の明確化や具現化するための手法を提案していく予定である。特に、使えば使うほど愛着などの精神的価値が成長するメカニズムの解明とその応用方法に焦点をあてた研究活動を推進していく。

また、6月に大阪工業大学で開催される春季大会にてテーマセッション「タイムアクシスデザイン」、オーガナイズ

ドセッション「タイムアクシスデザイン  
維新は新たな地平を拓くか？」を企画しており、多くの方々との活発な議論を期待している。

# 2018年度 予算案

2018年度(2018年4月1日-2019年3月31日) 予算(案)

Ver.5

[一般会計]

## ■収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
2017年度繰越金	6,913,479		6,913,479
1 会費(現)	16,374,800	正会員@13,000×1,458名×0.8(徴収率) 学生会員@6,500×233名×0.8(徴収率)	15,163,200 1,211,600
2 会費(新)	2,090,000	正会員@18,000×80名(一般入会金:5,000,年会費:13,000) 学生会員@6,500×100名(入会金:免除,年会費:6,500)	1,440,000 650,000
3 賛助会員費(現)	920,000	29件	920,000
4 賛助会員費(新)	30,000	@30,000×1件	30,000
5 年間購読会員費(現)	1,225,000	@25,000×49件	1,225,000
6 年間購読会員費(新)	25,000	@25,000×1件	25,000
7 広告費	50,000	@50,000×1件	50,000
8 学会誌掲載別刷料・負担金	3,235,000	論文掲載料(@40,000×10報)×6冊 作品集審査費(@3000×25件) 作品集掲載費(@40,000×15報) 2017年度作品集掲載費(@40,000×4件)	2,400,000 75,000 600,000 160,000
9 概要集売上金	0	@3,500×0冊	0
10 春季研究発表大会	5,000,000		5,000,000
11 秋季企画大会	1,000,000		1,000,000
13 雑収入	820,000	学会誌売上 NIH-ELS還元金、補助金、預金利息等	20,000 800,000
計	37,683,279		37,683,279

## ■支出の部

項目	予算額	予算額内訳	
<b>本部事務局&amp;理事会関係</b>	<b>11,129,280</b>		
1 本部事務局経費	10,079,280	消耗品代 運営経費(春季,秋季大会出張費用含む) 職員給与(@180,000×12,@230,000×2)+(@150,000×12,@75,000×2) 通勤費(@6,000×12)+(@13,820×4,@6,000×12) 施設設備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃賃料(@150,000×12ヶ月) 光熱費 アルバイト雇用費および時間外手当 経理業務コンサルタント料 租税公課 労災保険料	300,000 300,000 4,570,000 199,280 250,000 800,000 250,000 150,000 150,000 1,800,000 140,000 800,000 200,000 70,000 100,000
2 理事会運営費	1,050,000	会場借用料、理事会運営経費等	1,050,000
3 選挙経費	0	選挙に関する費用	0
<b>学会誌審査・編集関係</b>	<b>1,395,000</b>		
4 論文審査委員会経費	700,000		700,000
5 作品審査委員会経費	275,000		275,000
6 学会誌編集・出版委員会経費	30,000		30,000
7 特集号編集委員会経費	390,000	第26巻1号編集委員会 第26巻2号編集委員会 第27巻1号編集委員会	130,000 130,000 130,000
<b>学会誌印刷・通信関係</b>	<b>11,366,895</b>		
8 印刷費	9,866,895	2017年度論文集(0冊) 2017年度特集号(0冊) 2017年度作品集(1冊)+オンデマンド印刷 論文集(@30,000×10報)×6冊 特集号(@2,000,000×2冊) 作品集(@35,000×15報) 論文集・作品集のオンデマンド印刷費(@900×6冊+@3700×1冊)×130件 概要集USB(800セット),プログラム印刷費(600冊) 封筒代	0 0 957,895 1,800,000 4,000,000 525,000 1,183,000 901,000 500,000
9 出版物通信費	1,500,000	郵送料・事務代行料金	1,500,000

<b>大会関係</b>		<b>5,260,000</b>	
10	2018年度春季研究発表大会	3,000,000	3,000,000
11	2018年度秋季企画大会	1,200,000	1,200,000
12	2019年度春季研究発表大会	0	0
13	春季大会概要編集委員会経費	450,000	50,000
			活動費
			演題登録システム( PASREG ) 利用料, データ変換料
14	春季オーガナイズドセッション費用	320,000	320,000
			@80,000×4件
15	学会セミナー費用	100,000	100,000
16	総会準備経費	30,000	30,000
			総会経費、委任状・資料印刷代
17	学会各賞選考委員会経費	100,000	100,000
			資料作成費・記念品代
18	国際デザイン会議	60,000	60,000
			国際デザイン会議会費 (500 \$)
			国際デザイン会議活動費
			0
<b>委員会関係</b>		<b>1,400,000</b>	
19	委員会経費	200,000	200,000
			共通費
20	研究部会共通経費	400,000	400,000
			共通費( 現行16研究部会)
21	支部活動補助費	750,000	750,000
			@150,000×5支部
22	市販図書企画・編集経費	50,000	50,000
			編集費
<b>広報関係</b>		<b>250,000</b>	
23	広報費	250,000	200,000
			大会ポスター・通信費, パンフレット作成費
			ホームページ管理・運営
			50,000
<b>その他</b>		<b>6,882,104</b>	
24	学協会関連	275,000	60,000
			学術会議活動費( @30,000+@30,000)
			藝術学関連学会連合シンポジウム分担金
			日本工学会活動費
			日本工学会会費
			CPD協議会会費
			横断型基幹科学技術研究団体連合会費
			横断型基幹科学技術研究団体連合活動費
25	予備費	6,607,104	6,607,104
	計	<b>37,683,279</b>	<b>37,683,279</b>